

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第136集

坂戸市

あし

あらい

足 洗 遺 跡

住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

—VII—

1994

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



足洗遺跡遠景（東から西を望む、中央部や下の鉄塔先端が足洗遺跡）



第26号住居跡出土遺物

序

坂戸市は埼玉県の中央部に位置し、旧石器時代から現代まで累々として人々の生活が営まれてきました。これは、この地域が人々の生活に適した立地条件を持っていたことを物語っています。毛呂山丘陵から流れを発する越辺川を中心とした河川が、この地域の人々の暮らしに大きな役割を果たしたといえましょう。

近年、坂戸市周辺は首都圏外郭の近郊都市として著しい発展を遂げるようになりました。多くの人々の生活に潤いを与えてきた越辺川流域も入西地区を中心に住宅・都市整備公団による大規模宅地造成事業が計画されました。事業地内に所在する遺跡の取扱いについては、関係機関と協議を重ねた結果、当事業団が発掘調査し、記録保存の措置をとることになり、事業地内で確認された11遺跡について、昭和59年度から実施してきたところです。

昭和59年度から始まった調査では古墳時代前期の集落跡や墓跡群が多数発見されたほか、中世の梵鐘や仏像を製造した鋳造遺跡が発見される等多くの成果を上げることができました。

足洗遺跡の発掘調査では、古墳時代後期から奈良時代を中心とした集落跡で、竪穴住居跡が38軒発見されたほか、遺跡西側には掘立柱建物跡群が並んでおり、古代の村の様子を知るうえで貴重な遺跡です。

本書はこれらの成果をまとめたものです。調査成果が学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓蒙及び教育機関の参考資料として広く御活用いただけることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで多大な御協力を賜りました教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、住宅・都市整備公団、坂戸市教育委員会並びに地元関係各位、発掘整理作業に携われた方々に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒 井 桂

例 言

1. 本書は埼玉県坂戸市大字新堀字足洗522番地他に所在する足洗遺跡の発掘調査報告書である。文化庁指示通知は、平成元年10月3日付委保第5の1068である。
2. 調査は、坂戸市入西地区土地区画整理事業に先立つ事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整を経て、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
3. 入西地区土地区画整理事業関係の既刊発掘調査報告書は下記のとおりである。

『金井遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第86集	平成元年
『広面遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第89集	平成2年
『塚の越遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第101集	平成3年
『稲荷前遺跡（A区）』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第120集	平成4年
『桑原遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第121集	平成4年
『中耕遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第125集	平成5年
4. 足洗遺跡の発掘調査は、平成元年4月1日から平成元年10月31日まで実施した。整理・報告書作成は平成5年4月1日から平成6年3月31日まで実施した。発掘調査及び整理事業の組織は2ページに記した。
5. 分析・鑑定については下記へ委託した。

土器胎土分析	榎第四紀地質研究所
炭化材同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
骨片鑑定	聖マリアンナ医科大学第2解剖学教室
6. 本書の執筆は馬橋泰雄が行ったが、縄文土器の実測と執筆は細田 勝、石器の実測は岩瀬 譲、山崎えり子、铸造関連遺物(1)の実測と執筆は赤熊浩一が行った。
7. 図版作成、写真撮影は下記の者が行った。

図版作成及び遺物撮影	馬橋
発掘調査における写真撮影	杉崎茂樹・富田和夫・赤熊浩一・石塚和則・馬橋
8. 本書の編集は資料部資料整理第1課の馬橋が担当した。
9. 本書に掲載した資料は、平成6年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
10. 本書の作成に際し、下記の方々から御教示・御協力を賜った。

石塚和則	伊藤研志	小俣 悟	加藤泰朗	北堀彰男	柳 榮 理	渡辺 一
------	------	------	------	------	-------	------

凡 例

本書における挿図の指示は次のとおりである。

1. X、Yによる座標表示は国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表す。
2. 本書で掲載した遺構番号は発掘調査時点のものとは異なり、整理時点で適宜変更した。第13・14頁に遺構番号新旧対応表を付した。
3. 挿図の縮尺は、住居跡1/60、カマド・貯蔵穴1/30、堀立柱建物跡1/60、溝跡1/300、溝跡土層・断面図1/60、井戸跡1/60、土壌1/60、土器1/4、石鏃等2/3、打製石斧1/2、石皿1/4、鉄製刀子等1/3、井戸枠等木製品1/8を原則としたが、例外もある。

4. 遺構の略号は以下のとおりである。

S J……堅穴住居跡 S B……掘立柱建物跡 S E……井戸跡 S D……溝跡 S K……土壌
S C……集石土壌 S U……埋襲 S T……火葬墓 P……ピット

5. 土器実測図は以下のように行った。

- ・土器実測で復元実測に依ったものは口縁を直線で結ばず、中心線の両側をやや開けることにした。
- ・須恵器の断面は黒で塗りつぶした。図外に示した細線は篋削りの範囲を、図内の矢印は篋削りにおける工具の移動方向を示す。
- ・土師器の断面は白抜きにした。赤彩されたものには10%、黒色には30%の網をかけた。

6. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

- ・口径、器高、底径の数値の単位はcmで、() 付のものは推定値である。
- ・胎土は肉眼で観察した範囲内で確認された含有鉱物を以下の記号で示した。
A石英、B白色粒子、C白色針状物質、D長石、E角閃石、F赤色粒子、G黒色粒子、H雲母、I片岩、J砂粒。
- ・焼成は4ランクに分け、A良好、B普通、Cやや不良、D不良である。
- ・色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1991）による。
- ・残存は%で示し、5%単位とした。
- ・「出土位置・その他」のNaは土器記載してある註記番号である。

7. 遺構の時期は『稲荷前遺跡（A区）』の表記である、稲荷前IV期（7世紀3/4～4/4期）、稲荷前V期（7世紀末葉～8世紀1/4期前半）、稲荷前VI期（8世紀1/4期後半）、稲荷前VII期（8世紀2/4期）、稲荷前VIII期（8世紀2/4後半～3/4期前半）、稲荷前IX期（8世紀3/4後半～4/4期前半）に合わせ、その他は実年代を使用した。

目 次

序

例 言

凡例

I	発掘調査の経過	1
1	発掘調査に至る経過	1
2	発掘調査・整理の組織	2
3	発掘調査・整理作業の経過	3
II	遺跡の立地と環境	4
III	遺跡の概観	9
IV	遺構と遺物	15
1	縄文時代の遺構と遺物	15
(1)	住居跡	16
(2)	埋甕	17
(3)	集石土壌	18
(4)	その他の遺物	19
2	古墳時代後期以降の遺構と遺物	24
(1)	住居跡	24
(2)	掘立柱建物跡	106
(3)	井戸跡	138
(4)	溝跡	147
(5)	土壌	160
(6)	火葬墓	180
(7)	铸造関連遺物	181
(8)	その他の遺物	183
V	調査のまとめ	186
1	古墳時代後期前半の土器と遺構	186
2	古墳時代後期後半から奈良時代にかけての土器と遺構	187
3	中世の遺構	190
	付編	193

挿 図 目 次

第1図	足洗遺跡周辺の地形	4	第51図	第15号住居跡	47
第2図	足洗遺跡周辺主要遺跡図	6	第52図	第15号住居跡炉跡・貯蔵穴	48
第3図	足洗遺跡と隣接する金井遺跡・ 金井遺跡B区的位置	9	第53図	第15号住居跡出土遺物	48
第4図	足洗遺跡全体図	10	第54図	第16号住居跡・カマド・貯蔵穴	49
第5図	縄文時代の遺構	15	第55図	第16号住居跡出土遺物	50
第6図	第1号住居跡	16	第56図	第17号住居跡	51
第7図	第1号住居跡炉跡・埋裏	17	第57図	第17号住居跡カマド	51
第8図	第1号住居跡埋裏土器	17	第58図	第18号住居跡	52
第9図	第1号埋裏	17	第59図	第18号住居跡カマド・貯蔵穴	53
第10図	第1号埋裏土器	17	第60図	第19号住居跡	54
第11図	第1号集石土壌	18	第61図	第17・18・19号住居跡出土遺物	56
第12図	第1号集石土壌出土石器	18	第62図	第20号住居跡貯蔵穴	57
第13図	第2号集石土壌	19	第63図	第20号住居跡	58
第14図	第3号集石土壌	19	第64図	第20号住居跡カマド	59
第15図	一括出土の土器(1)	20	第65図	第20号住居跡出土遺物(1)	60
第16図	一括出土の土器(2)	21	第66図	第20号住居跡出土遺物(2)	61
第17図	一括出土の石器	23	第67図	第21号住居跡	62
第18図	第2号住居跡	24	第68図	第21号住居跡カマド・貯蔵穴	63
第19図	第2号住居跡カマド・貯蔵穴	25	第69図	第22号住居跡	64
第20図	第2号住居跡出土遺物	25	第70図	第22号住居跡カマド	65
第21図	第3号住居跡	25	第71図	第21・22号住居跡出土遺物	66
第22図	第4号住居跡	26	第72図	第23号住居跡・カマド・貯蔵穴	67
第23図	第4号住居跡カマド・貯蔵穴	27	第73図	第23号住居跡出土遺物	68
第24図	第4号住居跡出土遺物	27	第74図	第24号住居跡	69
第25図	第5号住居跡	28	第75図	第24号住居跡出土遺物	70
第26図	第5号住居跡出土遺物	28	第76図	第25号住居跡・住居内1号土壌	71
第27図	第6号住居跡	29	第77図	第25号住居跡カマド・貯蔵穴	72
第28図	第6号住居跡カマド・貯蔵穴	30	第78図	第25号住居跡出土遺物	73
第29図	第6号住居跡出土遺物	30	第79図	第26号住居跡	74
第30図	第7号住居跡・出土遺物	30	第80図	第26号住居跡カマド・貯蔵穴	75
第31図	第8号住居跡	31	第81図	第26号住居跡出土遺物(1)	76
第32図	第8号住居跡カマド・貯蔵穴	32	第82図	第26号住居跡出土遺物(2)	77
第33図	第8号住居跡出土遺物	32	第83図	第27号住居跡・カマド土層	79
第34図	第9号住居跡	33	第84図	第28号住居跡・住居内1号土壌	80
第35図	第9号住居跡貯蔵穴	34	第85図	第28号住居跡カマド	80
第36図	第9号住居跡出土遺物	34	第86図	第27・28号住居跡出土遺物	81
第37図	第10号住居跡	35	第87図	第29・30・31号住居跡	83
第38図	第10号住居跡カマド・貯蔵穴	36	第88図	第29号住居跡・カマド土層	83
第39図	第10号住居跡出土遺物	36	第89図	第30号住居跡	84
第40図	第11号住居跡	37	第90図	第31号住居跡	85
第41図	第11号住居跡カマド・貯蔵穴	38	第91図	第31号住居跡カマド	86
第42図	第11号住居跡出土遺物	39	第92図	第29・30・31号住居跡出土遺物(1)	86
第43図	第12号住居跡	40	第93図	第29・30・31号住居跡出土遺物(2)	87
第44図	第12号住居跡カマド・貯蔵穴	41	第94図	第32号住居跡	88
第45図	第12号住居跡出土遺物	42	第95図	第32号住居跡カマド・貯蔵穴	89
第46図	第13号住居跡	43	第96図	第32号住居跡出土遺物(1)	90
第47図	第14号住居跡	44	第97図	第32号住居跡出土遺物(2)	91
第48図	第14号住居跡カマド・貯蔵穴	45	第98図	第33号住居跡	93
第49図	第14号住居跡出土遺物(1)	45	第99図	第33号住居跡カマド	93
第50図	第14号住居跡出土遺物(2)	46	第100図	第33号住居跡出土遺物	94
			第101図	第34号住居跡	95

第102図	第34号住居跡カマド・貯蔵穴	96
第103図	第34号住居跡出土遺物	96
第104図	第35号住居跡	97
第105図	第35号住居跡カマド・貯蔵穴	97
第106図	第35号住居跡出土遺物	98
第107図	第36号住居跡・カマド	99
第108図	第36号住居跡出土遺物	99
第109図	第37号住居跡・住居内1、2号土壇	100
第110図	第37号住居跡カマド	100
第111図	第37号住居跡出土遺物	101
第112図	第38号住居跡	102
第113図	第38号住居跡カマド	102
第114図	第38号住居跡出土遺物(1)	103
第115図	第38号住居跡出土遺物(2)	104
第116図	第39号住居跡・貯蔵穴	105
第117図	第39号住居跡出土遺物	105
第118図	第1号掘立柱建物跡	106
第119図	第2号掘立柱建物跡	107
第120図	第3号掘立柱建物跡	108
第121図	第4号掘立柱建物跡	109
第122図	第4号掘立柱建物跡出土遺物	110
第123図	第5号掘立柱建物跡	110
第124図	第5号掘立柱建物跡出土遺物	111
第125図	第6号掘立柱建物跡	111
第126図	第6号掘立柱建物跡出土遺物	112
第127図	第7号掘立柱建物跡出土遺物	112
第128図	第7号掘立柱建物跡	113
第129図	第8号掘立柱建物跡	114
第130図	第9号掘立柱建物跡	115
第131図	第10号掘立柱建物跡	116
第132図	第11号掘立柱建物跡	117
第133図	第12号掘立柱建物跡	118
第134図	第13号掘立柱建物跡	119
第135図	第14号掘立柱建物跡	120
第136図	第15号掘立柱建物跡	121
第137図	第16号掘立柱建物跡	122
第138図	第17号掘立柱建物跡	123
第139図	第18号掘立柱建物跡	124
第140図	第19号掘立柱建物跡	125
第141図	第20号掘立柱建物跡	126
第142図	第21号掘立柱建物跡	127
第143図	第22号掘立柱建物跡	128
第144図	第22号掘立柱建物跡出土遺物	129
第145図	第23号掘立柱建物跡	129
第146図	第24号掘立柱建物跡	130
第147図	第25号掘立柱建物跡	131
第148図	第26号掘立柱建物跡	132
第149図	第26号掘立柱建物跡出土遺物	132
第150図	第27号掘立柱建物跡	133
第151図	第28号掘立柱建物跡	134
第152図	第29号掘立柱建物跡	135

第153図	第30号掘立柱建物跡	136
第154図	第31号掘立柱建物跡	137
第155図	第1号井戸跡	138
第156図	第1号井戸跡出土遺物	138
第157図	第2号井戸跡	139
第158図	第3号井戸跡・出土遺物	139
第159図	第4号井戸跡	140
第160図	第5号井戸跡・出土遺物	140
第161図	第6号井戸跡・出土遺物	141
第162図	第7号井戸跡	141
第163図	第8号井戸跡	142
第164図	第8号井戸跡出土遺物	142
第165図	第9号井戸跡	142
第166図	第10号井戸跡	143
第167図	第11号井戸跡	143
第168図	第12号井戸跡出土遺物	143
第169図	第12号井戸跡	143
第170図	第13号井戸跡・出土遺物	144
第171図	第14号井戸跡	144
第172図	第15号井戸跡	145
第173図	第15号井戸跡出土遺物	145
第174図	第16号井戸跡	145
第175図	第16号井戸跡出土遺物	146
第176図	第17号井戸跡・出土遺物	146
第177図	第18号井戸跡	147
第178図	第18号井戸跡出土遺物	147
第179図	第1号溝跡	147
第180図	第2・3号溝跡	148
第181図	第2号溝跡出土遺物	148
第182図	第3号溝跡出土遺物	149
第183図	第4号溝跡出土遺物	149
第184図	第4・5号溝跡	150
第185図	第6号溝跡・出土遺物	151
第186図	第7号溝跡	152
第187図	第8号溝跡出土遺物	152
第188図	第8・9・10号溝跡	153
第189図	第11号溝跡	153
第190図	第12号溝跡	154
第191図	第13号溝跡	154
第192図	第14号溝跡出土遺物(1)	154
第193図	第14号溝跡出土遺物(2)	155
第194図	第14号溝跡	155
第195図	第15号溝跡	156
第196図	第21号溝跡出土遺物	157
第197図	第16・17・18・19・20・21・22・23号溝跡	157
第198図	第24号溝跡	158
第199図	第25・26・27・28・29・30・31号溝跡	159
第200図	第30号溝跡出土遺物	160
第201図	第1・2号土壇	161
第202図	第1・2号土壇出土遺物	161
第203図	第3～14号土壇	162

第204図	第15～26号土壌	163
第205図	第27～38号土壌	164
第206図	第39～49号土壌	165
第207図	第50～59号土壌	166
第208図	第60～73号土壌	167
第209図	第74～85号土壌	168
第210図	第86～97号土壌	169
第211図	第98～108号土壌	170
第212図	第109～120号土壌	171
第213図	第121～132号土壌	172
第214図	第133～146号土壌	173
第215図	第147～156号土壌	174
第216図	第157～164号土壌	175
第217図	第165～176号土壌	176
第218図	第177～184号土壌	177
第219図	第185～193号土壌	178
第220図	第10・65・94・106・109・111・126・152・	

	174・175・186・190号土壌出土遺物	179
第221図	第1号火葬墓	180
第222図	第1号火葬墓出土遺物	180
第223図	第2号火葬墓	180
第224図	第3号火葬墓	181
第225図	第4号火葬墓	181
第226図	第5号火葬墓	181
第227図	鋳造関連遺物(1)	182
第228図	鋳造関連遺物(2)	183
第229図	鋳造関連遺物計量グラフ	183
第230図	その他の遺物	184
第231図	古墳時代後期前半の土器	186
第232図	古墳時代後期前半の遺構	186
第233図	稲荷前IV期～IX期の土器(1)	187
第234図	稲荷前IV期～IX期の土器(2)	188
第235図	稲荷前IV期～IX期の遺構	189
第236図	中世の遺構	191

写真図版目次

図版 1	足洗遺跡遠景 (南から北を望む) 足洗遺跡全景 (南から北を望む)
図版 2	遺跡中央部の住居跡群 (南から北を望む) 遺跡西部の竪立柱建物跡群(北から南を望む)
図版 3	第1号住居跡 第1号住居跡炉跡 埋裏1号 埋裏1号 集石1号 集石1号 集石2号 集石3号
図版 4	第2号住居跡 第4号住居跡 第4号住居跡カマド 第4号住居跡出土遺物 第6号住居跡 第7号住居跡 第8号住居跡 第9号住居跡 第10号住居跡 第11号住居跡 第11号住居跡出土遺物 第11号住居跡カマド 第11号住居跡出土遺物 (産)
図版 5	第12号住居跡 第12号住居跡カマド 第14号住居跡

図版 6	第14号住居跡カマド 第14号住居跡掘方 第15号住居跡 第15号住居跡炉跡 第15号住居跡ビット遺物 第16号住居跡 第16号住居跡カマド・貯蔵穴 第17号住居跡
図版 7	第18・19号住居跡 第18・19号住居跡遺物分布 第18号住居跡カマド 第18号住居跡出土遺物 (産) 第20号住居跡 第20号住居跡遺物分布 第20号住居跡カマド 第20号住居跡貯蔵穴
図版 8	第21・22号住居跡 第21号住居跡カマド出土遺物 第22号住居跡カマド 第23号住居跡 第24号住居跡 第25号住居跡 第26号住居跡 第26号住居跡カマド出土遺物 (産)
図版 9	第26号住居跡出土遺物 第26号住居跡出土遺物 第26号住居跡出土遺物 第27・28号住居跡

図版10	第27号住居跡カマド	図版16	第18号井戸跡
	第28号住居跡カマド		第1号土壇
	第27・28号住居跡出土遺物(紡錘車)		第1号土壇出土遺物
	第29・30・31号住居跡		第2号土壇
	第29・30・31号住居跡遺物分布		第3号土壇
図版11	第32号住居跡	図版17	第109・110号土壇
	第32号住居跡カマド		第1号火葬墓
	第32号住居跡遺物分布		第2号火葬墓
	第32号住居跡掘方		第3号火葬墓
	第33号住居跡		SJ1-埋篋
図版12	第33号住居跡カマド	図版18	SU1-埋篋
	第34号住居跡		SC1出土石器(表面)
	第35号住居跡		SC1出土石器(裏面)
	第35号住居跡カマド		一括出土の石器(石鏃・石錐)
	第35号住居跡貯蔵穴・出土遺物		一括出土の石器(黒曜石の原石・搔器・打製石斧・磨石)
図版13	第36号住居跡	図版19	一括出土の縄文土器(1)
	第37号住居跡		一括出土の縄文土器(2)
	第38号住居跡		第4号住居跡出土遺物-2
	第38号住居跡遺物分布		第4号住居跡出土遺物-2・底部
	第39号住居跡		第4号住居跡出土遺物-3
図版14	第1号掘立柱建物跡	図版20	第4号住居跡出土遺物-4
	第2号掘立柱建物跡		第4号住居跡出土遺物-6
	第3・4号掘立柱建物跡		第9号住居跡出土遺物-1
	第5・6号掘立柱建物跡		第10号住居跡出土遺物-6
	第7・8号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-1
図版15	第9号掘立柱建物跡	図版21	第11号住居跡出土遺物-3
	第14・15号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-4
	第17・18号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-5
	第20号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-6
	第21・22号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-8
図版16	第23号掘立柱建物跡	図版22	第11号住居跡出土遺物-7
	第24号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-7
	第25号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-7
	第26・27号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-7
	第29・30号掘立柱建物跡		第11号住居跡出土遺物-7
図版17	第31号掘立柱建物跡	図版23	第11号住居跡出土遺物-7
	第1号井戸跡		第12号住居跡出土遺物-1
	第2号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-1
	第3号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-2
	第4号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-3
図版18	第5号井戸跡	図版24	第14号住居跡出土遺物-5
	第6号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-6
	第7号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-8
	第8号井戸跡		第14号住居跡出土遺物-11
	第9号井戸跡		第15号住居跡出土遺物-2
図版19	第11号井戸跡	図版25	第16号住居跡出土遺物-1
	第12号井戸跡		第16号住居跡出土遺物-2
	第13号井戸跡		第16号住居跡出土遺物-4
	第15号井戸跡		第16号住居跡出土遺物-7
	第16号井戸跡		第18号住居跡出土遺物-3
図版20	第17号井戸跡	図版26	第18号住居跡出土遺物-4
	第18号井戸跡		第18号住居跡出土遺物-4
	第19号井戸跡		第18号住居跡出土遺物-4
	第20号井戸跡		第18号住居跡出土遺物-4
	第21号井戸跡		第18号住居跡出土遺物-4

第18号住居跡出土遺物 - 6	第27・28号住居跡出土遺物 - 8
第18号住居跡出土遺物 - 7	第27・28号住居跡出土遺物-23 紡錘車
第18号住居跡出土遺物 - 8	第27・28号住居跡出土遺物-24 刀子
第19号住居跡出土遺物 - 1	第29・30・31号住居跡出土遺物 - 1
第19号住居跡出土遺物 - 2	第29・30・31号住居跡出土遺物 - 2
第19号住居跡出土遺物 - 3	第29・30・31号住居跡出土遺物 - 4
第19号住居跡出土遺物 - 4	第29・30・31号住居跡出土遺物 - 5
第20号住居跡出土遺物 - 2	第29・30・31号住居跡出土遺物 - 6
図版23 第20号住居跡出土遺物 - 4	第32号住居跡出土遺物 - 1
第20号住居跡出土遺物 - 6	第32号住居跡出土遺物 - 2
第20号住居跡出土遺物 - 9	第32号住居跡出土遺物 - 3
第20号住居跡出土遺物 - 10	第32号住居跡出土遺物 - 11
第20号住居跡出土遺物 - 12	第32号住居跡出土遺物 - 12
第20号住居跡出土遺物 - 13	第32号住居跡出土遺物 - 13
第20号住居跡出土遺物 - 16	第32号住居跡出土遺物 - 14
第22号住居跡出土遺物 - 4 刀子	第32号住居跡出土遺物 - 20
第22号住居跡出土遺物 - 5 刀子	第32号住居跡出土遺物 - 21
第22号住居跡出土遺物 - 6 刀子	第32号住居跡出土遺物 - 29
第22号住居跡出土遺物 - 3	第35号住居跡出土遺物 - 1
図版24 第23号住居跡出土遺物 - 1	第35号住居跡出土遺物 - 2
第24号住居跡出土遺物 - 1	第35号住居跡出土遺物 - 3
第24号住居跡出土遺物 - 4	第35号住居跡出土遺物 - 4
第24号住居跡出土遺物 - 5	第36号住居跡出土遺物 - 3
第25号住居跡出土遺物 - 1	第38号住居跡出土遺物 - 3
第25号住居跡出土遺物 - 2	第8号井戸跡出土遺物 - 1
第25号住居跡出土遺物 - 5	第18号井戸跡出土遺物 - 2
第26号住居跡出土遺物 - 1	第18号井戸跡出土遺物 - 3
第26号住居跡出土遺物 - 4	第1号土壇出土遺物 - 1
第26号住居跡出土遺物 - 5	第1号土壇出土遺物 - 2
第26号住居跡出土遺物 - 11	第1号土壇出土遺物 - 3
第26号住居跡出土遺物 - 12	第186号土壇出土遺物・一括 刀子
図版25 第26号住居跡出土遺物 - 13	第1号火葬墓出土骨片
第26号住居跡出土遺物 - 14	第1号火葬墓出土遺物 - 1 鉄製品
第26号住居跡出土遺物 - 15	鋳造 - 6 羽口 (外面)
第26号住居跡出土遺物 - 16	鋳造 - 6 羽口 (内面)
第26号住居跡出土遺物 - 18	鋳造 - 7 羽口
第26号住居跡出土遺物 - 19	その他 - 11
第26号住居跡出土遺物 - 20	その他 - 12
第26号住居跡出土遺物 - 22	その他 - 13
第26号住居跡出土遺物 - 23	その他 - 14 鉄製紡錘車
図版26 第26号住居跡出土遺物 - 24	その他 - 15 開通元宝
第26号住居跡出土遺物 - 28	その他 - 16 紹興元宝
第27・28号住居跡出土遺物 - 2	

表目次

第1表 周辺主要遺跡一覧表

第2表 足洗遺跡遺構番号新旧対応表

I 発掘調査の経過

1 発掘調査に至る経過

首都圏における人工増加の波は著しく、全国の三分の一の人口が集中している。埼玉県ではそれに対応するため、住宅・都市整備公団等を中心に住宅対策及び地域環境整備計画が進められている。坂戸市入西（西部）地区については、住宅・都市整備公団より区画整理方式による宅地開発事業が計画された。

住宅・都市整備公団では文化庁との間で取り交わされた『住宅・都市整備公団の事業施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに関する覚書』に基づき、埼玉県教育委員会へ「坂戸市入西（西部）地区における埋蔵文化財の取り扱いについて」照会した。

県教育委員会では、埋蔵文化財遺跡地名表等に基づき、昭和56年1月20日付け教文第918号をもって次のとおり回答した。

記

1. 文化財の所在

名 称	所 在 地	種 別	時 期
坂戸市No99	坂戸市大字堀込	古 墳	古墳時代後期
柵塚古墳	字桑原157		

上記の他に条里遺跡及び畑地部分に集落遺跡の所在が予想される。

2. 取り扱いについて

- (1) 開発予定地内は事前の遺跡分布調査及び必要に応じて試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する必要がある。
- (2) 上記の結果をもとに埋蔵文化財ができるだけ現状保存できる開発計画を策定することが望ましい。
- (3) 計画上、やむを得ず現状変更する場合は、文化財保護法第57条の3の規定により、事前に文化庁長官あて埋蔵文化財発掘通知を提出して、記録保存のための発掘調査を実施すること。
- (4) 発掘調査を実施する場合は、事前に坂戸市教育委員会及び県文化財保護課と協議すること。

住宅・都市整備公団と県教育委員会では開発予定地内に所在する遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、財団法人埋蔵文化財調査事業団に委託して昭和59年度から発掘調査を実施することに決定した。

文化財保護法に基づき、住宅・都市整備公団からは埋蔵文化財発掘通知、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは埋蔵文化財発掘調査届が文化庁長官へ提出され、足洗遺跡の発掘調査は、平成元年4月1日～平成元年10月31日まで実施された。

2 発掘調査・整理の組織

(1) 発掘調査（平成元年度）

主体者 健崎玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 荒井 修 二

副理事長 百瀬 陽 二

常務理事
兼管理部長 古 市 芳 之

理事兼調査
研究部長 吉 川 國 男

管 理 部

管理課長 関 野 栄 一

主 事 江 田 和 美

主 事 岡 野 美智子

主 事 本 庄 朗 人

主 事 斉 藤 勝 秀

調査研究部

副 部 長 塩 野 博

第二課長 昼 間 孝 次

主任調査員 杉 崎 茂 樹

主任調査員 馬 橋 泰 雄

主任調査員 富 田 和 夫

主任調査員 赤 熊 浩 一

主任調査員 石 塚 和 則

(2) 整理・報告（平成5年度）

主体者 健崎玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 荒 井 桂

副理事長 富 田 真 也

専務理事 横 川 好 富

常務理事 柴 崎 光 生

兼管理部長

理 事 兼
調 査 部 長 中 島 利 治

管 理 部

庶務課

庶務課長 萩 原 和 夫

主 査 賛 田 清 久

主 事 菊 池 久

経 理 課

経理課長 関 野 栄 一

主 任 江 田 和 美

主 事 長 滝 美智子

主 事 福 田 昭 美

主 事 腰 塚 雄 二

資 料 部

部 長 小 川 良 祐

副部長兼資料
整理第一課長 谷 井 彪

主任調査員 馬 橋 泰 雄

3 発掘調査・整理作業の経過

(1) 発掘調査

発掘調査に先立つ試掘調査が昭和63年9月に実施され、遺構の範囲が確認された。足洗遺跡の発掘調査は平成元年4月に開始。昭和59年度から始まった住宅・都市整備公園坂戸入西地区土地区画整理事業に関わる一連の発掘調査の一つである。同時並行して、約500mほど北西に離れた地点で中耕遺跡の発掘調査も行われた。

調査区は表土からロームの地山まで約30cmほどの深さで、比較的浅く、表土除去作業は重機を用いて順調に進んだ。表土除去後、グリッドを設定し、遺構確認を遺跡北東端から順次行った。調査範囲は広いが、土は柔らかかったため調査は順調に進んだ。調査区の北側、東側の住居跡から発掘を開始し、南、西の遺構へと移るようにした。夏期になると暑さで地面が乾き、水をまきながら調査を進めた。

9月になると東京国立文化財研究所、青木繁夫氏を通じ、中国から2名の留学研修生を迎えた。氏名及び所属は以下のとおりである。

アンニワール・ハスム 新疆ウイグル自治区博物館保管部館員補

劉 学堂 新疆文物考古研究所館員補

9月4日から8日までの5日間の発掘研修であったが、調査員や補助員の間に混じって実際に住居跡の発掘を実習した。身近で有意義な国際交流に役立つことができた。

10月中旬になり遺構の発掘が終了したので、調査範囲を清掃し、航空写真撮影を行い、足洗遺跡の調査を終了した。引き続き調査区西に隣接する金井遺跡B区の調査を進めた。

(2) 整理作業

整理作業は平成5年4月に開始。土器の復元、遺構図面の整理、第2原図の作成を行う。5月、土器の実測、土器の石膏入れを始める。7月、遺構図面のトレースを開始。8月、土器実測図のトレースを始める。9月、住居跡の遺物分布図を作成、遺構断面図に斜線のスクリーントーンを載せる。10月、原稿の執筆、図版の割付を始める。12月、遺物の写真撮影を行う。遺構・遺物写真図版

の割付を始める。平成6年1月、原稿の執筆、割付が終了する。1月末、入札。2から3月、校正・報告書刊行。



中国人留学研修生発掘研修時の集合写真
(足洗、中耕遺跡合同)

前列中央に当時の荒井修二理事長向って左が劉氏、右がアンニワール氏

II 遺跡の立地と環境

立地

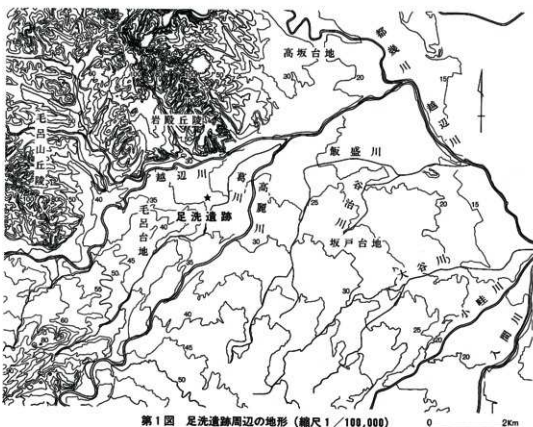
足洗遺跡のある坂戸市は埼玉県のほぼ中央に位置し、東武東上線、関越自動車道、国道407号線がそれぞれ南北に走り、首都圏のベッドタウン、また周辺地域の中核都市として交通、経済、住宅など、めざましく発展している。遺跡はその坂戸市の西部、入西地区に位置し、東武東上線、北坂戸駅の西、約2.5kmほどの場所にあり、坂戸市立入西小学校の北側に隣接する。

遺跡の位置する場所は毛呂台地上である。微細にみると毛呂台地から降りた先端部で、水田地帯にやや突出した舌状の低位台地上に立地する。標高は27mで、荒川水系に属する越辺川が北側を東流する。遺跡東側、北側是水田地帯が広がり、発掘調査以前は畑地として耕作されていた。

遺跡西側約15kmほどには、秩父山地の山波が望める。その山々は徐々に標高を下げ、標高50m代の毛呂山丘陵、標高35～40m代の毛呂台地と続く。そしてその毛呂台地の先端に足洗遺跡は位置する。

遺跡北側には約1.5kmほど離れた位置に標高約50～100mの岩殿丘陵が東に向かってその山波を連ね、やや標高を下げ高坂台地となり、その先で沖積低地の水田地帯に続く。岩殿丘陵手前には越辺川が東流する。

遺跡の南、東側で高麗川が北東方向に流れ、その向うには坂戸台地が広がる。さらに南東の小畔川、入間川が流れ、その向うには川越台地が広がる。



越辺川、高麗川、小畔川、入間川は徐々に合流し、川幅を広げ荒川に注ぐ。遺跡南端を流れる小河川の葛川は、坂戸市西側の毛呂山町から毛呂台地を貫通し、越辺川に注ぐ。足洗遺跡には密接な関連のある川である。遺跡の立地する入西地区は丘陵から台地、台地から沖積低地へと狭い範囲で大きく地形の変化する地点にあたる。

周辺の遺跡

足洗遺跡では縄文時代と古墳時代後期以降の遺構、遺物が検出されたので、この時代に該当する周辺の主な遺跡の概要を述べることにする。

縄文時代早期、前期にあたる周辺の遺跡は、住居を確認できた場合は少なく、炉穴や竪穴状遺構、または多数の土器片のみの検出というものが多い。岩殿丘陵上の駒掘遺跡、坂戸台地上の雷電池東遺跡、足洗遺跡隣の中耕遺跡などで確認できている。

中期になると遺跡は確実に増加し、多数の住居からなる集落が出現してくる。岩殿丘陵上の舞台遺跡は11軒、坂戸台地上の花影遺跡、山田遺跡は各々12軒、10軒を、越生町の上台山遺跡は14軒の住居を検出している。隣接する中耕遺跡でも中期の住居を7軒検出している。

縄文時代後・晩期になるとこの付近の遺跡は減少するようである。第2図の遺跡図より西の越生町の南原遺跡で後期の住居1軒、炉1基を検出している。

古墳時代後期から奈良、平安時代にかけては周辺の台地上、丘陵上ともまとまった集落遺跡を多数見つけることができる。

岩殿丘陵上には古墳時代後期の住居を駒掘遺跡で11軒、舞台遺跡で93軒、下寺前遺跡で11軒を、奈良時代では緑山遺跡で4軒、立野遺跡で3軒を検出している。中でも舞台遺跡は7世紀後半代の基準資料となる須恵器窯跡として著名である。ただし奈良時代以降平安時代にかけては集落は減少する。

岩殿丘陵上を西に転ずると8世紀に操業開始する、武蔵四大窯跡群の一つである南比企窯跡群がある。41基の須恵器窯跡や無数の粘土探掘窯、窯業に携わった工人達の住居跡などが検出され、8～9世紀の須恵器編年が提示されるなど、多大な成果をあげた。足洗遺跡の8世紀以降の須恵器は胎土に白色針状物質を含む南比企窯跡産であり、密接な関係が窺える。さらに西には古墳時代後期の須恵器を焼いた小用窯跡、奈良時代の寺院である小用廃寺が存在する。

高麗川を越えた坂戸台地上でも集落が小河川に沿って存在する。飯盛川上流付近には一天狗遺跡、八幡遺跡、宮田遺跡、山田遺跡からなる脚折遺跡群が奈良、平安時代にかけて大集落を形成する。なかでも一天狗遺跡は漆紙文書や円面硯が検出されている。坂戸台地中央部分には大規模な掘立柱建物群が発掘され、郡衙跡ではないかといわれる若葉台遺跡がある。

坂戸台地北側から東側にかけては芦山遺跡、勝呂遺跡、住吉中学校遺跡、附島遺跡、木曾免遺跡など古墳時代前期から奈良・平安時代にかけて古墳群や多数の集落遺跡が存在する。さらに台地東側の大谷川沿いには古墳時代後期を中心とする大集落の上谷遺跡、前林遺跡が存在し、坂戸市域における古墳時代後期の土器の理解に欠かせないものとなっている。

次に足洗遺跡が立地する毛呂台地上にも多数の遺跡が存在する。住宅・都市整備公団関係の発掘

調査では塚ノ越遺跡、桑原遺跡、稲荷前遺跡、金井遺跡、金井B遺跡、棚田遺跡、田島遺跡で古墳時代後期から奈良平安時代にかけて夥しい数の住居跡を確認している。これらの遺跡はいずれも台地の先端部、あるいは低位台地上に立地する。これに対して台地上部分の遺跡である大河原遺跡、北峰西浦遺跡を、低位台地上の長岡遺跡などを坂戸市教育委員会が発掘調査を実施し、良好な成果をあげている。これらの地区は坂戸市のなかく入西地区と呼ばれ、入西遺跡群を形成する。また集落跡だけでなく、広面遺跡や中耕遺跡、稲荷前遺跡で方形周溝墓群が多数検出されている。古墳後期の古墳群が台地上に多数存在し、北峰古墳群、三福寺古墳群、大河原古墳群、成願寺古墳群、善能寺古墳群、塚原古墳群、毛呂山町になるが川角古墳群が存在する。

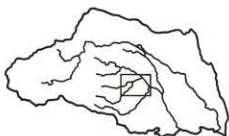
さらに中世では足洗遺跡隣接の金井遺跡・B区で鉄製品や銅製品を生産する鑄造遺構が検出された。



第2図 足洗遺跡周辺主要遺跡図

また毛呂山町に属するが、堂山下遺跡では鎌倉街道に面する中世の掘立柱建物跡群を多数検出した。足洗遺跡でも中世の掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡を確認しており、また金井遺跡、稲荷前遺跡、桑原遺跡でも中世の遺構・遺物を確認した。

足洗遺跡の周辺には入西遺跡群をはじめ、多数の遺跡があり、本遺跡と密接な関連を持っている。



(縮尺 1/50,000)

第1表 周辺主要遺跡一覧表

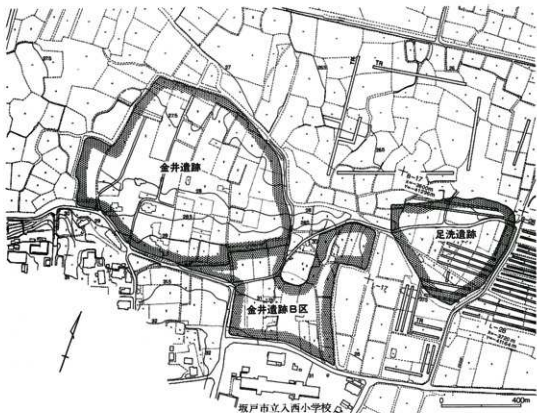
No.	遺跡名	概 要	No.	遺跡名	概 要
1	足洗遺跡	縄文後期・集落、古墳後期～奈良・集落	48	勝呂遺跡群	古墳群、
2	金井遺跡B区	奈良～平安・集落、中世・銅造			古墳後期～平安・集落・寺院
3	金井遺跡	古墳後期～奈良・集落	49	塚越古墳群	古墳後期・古墳群
4	中耕遺跡	縄文早期～中期・集落、古墳前期・集落・周溝墓	50	駒方遺跡	平安・集落
5	広面遺跡	古墳前期・周溝墓	51	住吉中学校遺跡	奈良・集落
6	桑原遺跡	古墳中期～平安・集落、中世・集落	52	宮町遺跡	奈良・集落
7	棚田遺跡	古墳後期・集落	53	青木堀ノ内遺跡	奈良・集落
8	田島遺跡	古墳後期・集落	54	御門遺跡	平安・集落
9	稲荷前遺跡	古墳前期・集落・周溝墓、古墳後期～中世・集落	55	小沼堀ノ内遺跡	古墳後期・集落
10	塚の越遺跡	縄文中期・集落、古墳後期～中世・集落	56	蔵ヶ谷ノ内遺跡	古墳後期・奈良・集落
11	稲荷森遺跡	奈良・集落	57	明泉遺跡	古墳後期・奈良・平安・集落
12	長岡遺跡	古墳前期・後期・奈良・集落	58	塚越渡戸遺跡	古墳後期・集落
13	花見塚遺跡	平安・集落	59	附島遺跡	縄文前期・集落、弥生中期・後期・集落、周溝墓、古墳後期・奈良・平安・集落
14	若宮遺跡	奈良・集落	60	雷電塚古墳群	古墳後期・古墳群
15	北峰西浦遺跡	古墳後期・集落	61	牛塚山古墳群	古墳後期・古墳群
16	北峰古墳群	古墳後期・古墳群	62	木曾免遺跡	古墳前期・集落・周溝墓、古墳中期・集落
17	三福寺古墳群	古墳群	63	丸山遺跡	弥生後期・集落
18	大河原遺跡群	古墳群、古墳後期・奈良・集落	64	高窪遺跡	古墳前期・中期・集落
19	成順寺古墳群	古墳群	65	上谷遺跡	古墳前期・後期・平安・集落
20	善能寺岡山遺跡	平安・集落	66	前林遺跡	古墳中期・後期・平安・集落
21	善能寺古墳群	古墳群	67	西谷ツ窟跡	古墳後期・須恵器窯跡
22	塚原古墳群	古墳群	68	原遺跡	平安・集落
23	川角古墳群	古墳群	69	天王山古墳群	古墳群
24	伴六遺跡	平安・集落	70	中小坂遺跡	縄文中期・集落
25	大家小学校遺跡	奈良・集落	71	下小坂古墳群	古墳群
26	おはやし山古墳群	古墳群	72	立野遺跡	縄文早・前期・包含層、古墳後期・奈良・集落
27	宮裏遺跡	古墳前期・周溝墓	73	緑山遺跡	縄文早期・前期・集落、古墳前期・後期・奈良・集落
28	浅羽野古墳群	古墳群	74	根平遺跡	弥生後期・集落、古墳中・後期・集落、古墳後期・須恵器窯跡、古墳群
29	花影遺跡	縄文中期・集落、弥生後期・周溝墓、奈良・集落	75	舞台遺跡	縄文早・中期・集落、古墳後期・集落・窯跡
30	一天狗遺跡	古墳、奈良・平安・集落	76	駒塚遺跡	弥生後期・集落・周溝墓、古墳群、古墳後期・集落
31	宮田遺跡	奈良・集落	77	大塚原遺跡	縄文早期・包含、古墳後期・奈良・集落
32	雷電池東遺跡	奈良・集落	78	田木山古墳群	古墳群
33	八幡遺跡	奈良・集落	79	桜山遺跡群	古墳群、古墳後期・須恵器窯跡
34	大境遺跡	奈良・集落	80	下寺前遺跡	古墳後期・集落
35	若葉台遺跡	奈良・集落	81	代正寺・大西遺跡	弥生中期・後期・集落、古墳前期・周溝墓・集落
36	八幡古墳群	古墳群	82	鳩山窯跡群	奈良・須恵器窯跡群
37	山田遺跡	奈良・平安・集落			古墳後期・須恵器窯跡
38	永源寺古墳群	古墳群	83	小用庵寺	奈良・寺院
39	新山古墳群	古墳群	84	西戸丸山窯跡	奈良・瓦窯跡
40	相模場遺跡	弥生後期・集落	85	堂山下遺跡	中世集落
41	宮戸ヶ谷遺跡	古墳後期・集落			
42	芦山遺跡	古墳後期・集落			
43	片柳古墳群	古墳群			
44	勇福寺遺跡	古墳前期・周溝墓			
45	新町古墳群	古墳群			
46	杉遺跡	古墳前期・周溝墓			
47	石井原遺跡	古墳前期・集落			

III 遺跡の概観

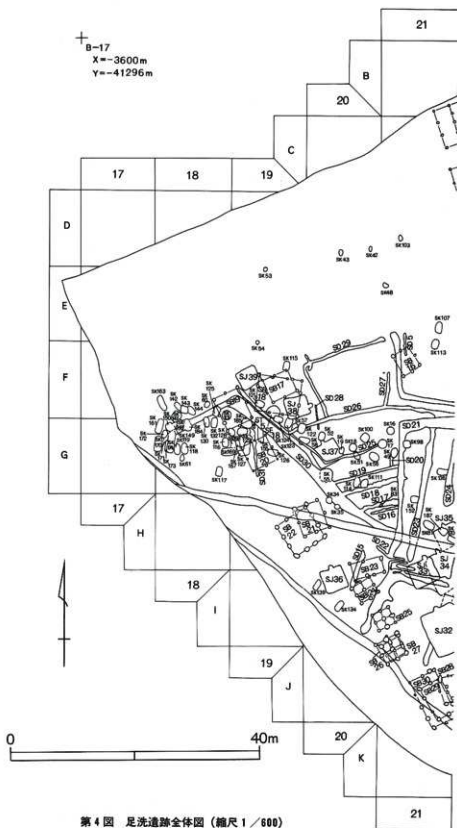
足洗遺跡は坂戸市立入西小学校北東約200mに位置し、毛呂台地の低位台地上に立地する。西側は谷を挟み、金井遺跡B区、金井遺跡と隣接する。北側、東側、南側はそれぞれ沖積低地の水田地帯が迫る。その微高地周辺に試掘を入れて遺構の有無を確認したので、ほぼ遺跡全体を調査できた。調査面積は約16,000㎡である。西側に隣接する金井遺跡B区にも台地部から一段降りた位置に住居跡群が存在し、足洗遺跡とのつながりは十分想定できる。しかし、谷を一つ挟んでいるので遺跡を分けることにした。

調査区内には12m×12mのグリッドを設定した。南北方向に10グリッド、120m、東西方向に11グリッド、132mの調査区である。グリッドは国家座標第IX系のXY座標にのり、北端のBグリッド北側のラインはX=-3600m、南端のLグリッド北側のラインはX=-3720m、西端の17グリッド西側のラインはY=-41296m、東端の28グリッドの西側のラインはY=-41164mである。

調査区内の地形は中央部が僅かに高く平坦で、しっかりとしたロームが残っていた。遺構の分布もこの部分に集中していた。調査区より東側はトレンチ調査で遺構がないことが確認された。調査区北側は埋没谷が始まる。東側も徐々に低くなり、第24号住居跡では床面のロームがはっきりしなかった。南側、西側でも標高を緩やかに下げ、埋没谷や水田地帯になる。



第3図 足洗遺跡と隣接する金井遺跡・金井遺跡B区の位置 (縮尺1/4,000)





確認された遺構は、住居跡39軒、掘立柱建物跡31軒、井戸跡18基、溝跡31条（その他に現代の水路である第32号溝跡が検出されたが、遺構数に入れない。）、土壕193基、埋甕1基、集石土壕3基、火葬墓5基である。時期不明の遺構を除き、時代別にまとめると次のようになる。

縄文時代後期の遺構は住居跡1軒、埋甕1基、集石土壕3基である。なお、土壕はこの時期に該当するかどうか、はつきりと捉えられなかった。他に縄文時代早期から後期までの遺物を遺跡一括出土の遺物として検出した。遺構は遺跡の中央部でなく、周辺部、つまり微高地上の縁辺に立地する傾向があった。

古墳時代後期前半の遺構は住居跡4軒である。

古墳時代後期後半～奈良時代の遺構は住居跡34軒、掘立柱建物跡24軒、井戸跡9基、土壕25基である。

中世の遺構は、掘立柱建物跡7軒、井戸跡6基、溝跡21条、火葬墓5基、土壕14基である。

古墳時代後期以降は6世紀第1四半期の住居跡が集落の初現である。僅か4軒の構成であり、周辺の桑原遺跡、棚田遺跡で検出されたような赤彩が丁寧に施された椀や小形壺などを検出した。いずれの住居跡も比較的小形の住居跡で、一時的な生活に耐えられるだけのよう呈である。ここに留まることもなく、他の場所に移り住んだのか、これ以後の住居跡は一時消えてしまう。

そして古墳時代後期後半、7世紀第3四半期、再び住居跡が出現し、奈良時代の後半まで、集落が営まれる。住居跡はやや標高の高い遺跡中央部に集中し、竪穴住居跡群と、掘立柱建物跡群がセットで建並んでいたと思われる。中央部での竪穴住居跡群の切合いは複雑で、しかも短い時間の中で建替が行われたことが出土土器の様相から窺える。掘立柱建物跡は遺跡西側に主軸をほぼ同じくして、13軒が並んで検出され、興味深い。掘立柱建物跡では土器の検出が少ないが、本遺跡でも同様であった。柱穴の形態から掘方が大きく、しっかりしたものが恐らくこの時期に伴うものと思われる。総柱の2間×2間の建物で4軒検出されたが、この柱穴の掘方が大きく、このことを裏付けていよう。

この時期、稲荷前IV期、V期にかけての遺物の中で特徴的な土器がある。在地の土師器環で口縁部が内湾し、体部が張り、口縁部内面に沈線を有する比企型環である。本遺跡でも良好な資料が得られた。これと共伴する小形で、底部手持筥削りの須恵器の環や、小形の須恵器の蓋がある。稲荷前VI期になると本遺跡北西約4kmにある南比企窯跡群で操業が開始される。それと同じくして本遺跡でもその製品が検出される。作りがシャープで大型の須恵器環、蓋、椀である。土師器環は量はやや減じるが残り、比企型環から皿状の環に替り、胎土の異なる北武蔵型の環が混じるようになる。稲荷前VIII・IX期になると須恵器環は小型化し、器高のやや高いものとなる。

中世の遺構は掘立柱建物跡とそれを囲むように位置する溝跡、そして井戸跡である。また溝の外側にも中世の掘立柱建物跡が存在し、集落が形成されていたと思われる。また火葬墓は墓域を形成し、長方形の土壕群も恐らく同様のものと思われる。鋳造関連の遺物を少量検出したが、隣接する金井遺跡B区のような鋳造遺構は検出されなかった。混入の遺物と思われる。

中世の遺物は井戸跡や溝跡から検出された。遺物は胎土のよくない在地産の内耳鍋が多く、口縁内面に大きな湾曲を持つものが多く検出された。常滑の甕、鉢が少量ある。瀬戸・美濃の水滴が2

点検出された。1点であるが青白磁の皿を検出した。

また本遺跡に隣接する位置に金井遺跡、金井遺跡B区、さらに稲荷前、桑原、中耕遺跡などが点在し、集落の移動や集落のつながりなど、遺跡どうしの関連性が十分考えられる遺跡群となっている。

第2表 足洗遺跡遺構番号新旧対応表

(1) 住居跡

新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド
S J-1	S J-39	I-23	S J-13	S J-40	F-24	S J-26	S J-17	J-23
S J-2	S J-1	D-26	S J-14	S J-14	G-24	S J-27-28	S J-18A-B	J-23
S J-3	S J-5	D-25	S J-15	S J-13	G-24	S J-29-30-31	S J-22-33-34	J-22
S J-4	S J-2	D-26	S J-16	S J-12	G-24	S J-32	S J-27	I-21
S J-5	S J-3	E-26	S J-17	S J-19	H-24	S J-33	S J-28	I-21
S J-6	S J-4	E-26	S J-18	S J-20	G-23	S J-34	S J-29	H-21
S J-7	S J-6	E-26	S J-19	S J-20	G-23	S J-35	S J-30	H-21
S J-8	S J-7	F-27	S J-20	S J-18-21	H-24	S J-36	S J-31	I-20
S J-9	S J-9	G-26	S J-21-22	S J-22-23	H-24	S J-37	S J-36	G-20
S J-10	S J-8	G-26	S J-23	S J-15	H-25	S J-38	S J-35	F-19
S J-11	S J-11	G-25	S J-24	S J-38	I-26	S J-39	S J-37	F-19
S J-12	S J-10	G-25	S J-25	S J-25-28	I-23			

(2) 掘立柱建物跡

新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド
S B-1	S B-1	C-27	S B-12		G-22	S B-23	S B-20	H-20
S B-2	S B-2	F-26	S B-13		H-22・23	S B-24	S B-22	I-20
S B-3	S B-3	E-24	S B-14	S B-29	C-22	S B-25	S B-7	I-21
S B-4	S B-4	E-24	S B-15	S B-28	C-22	S B-26	S B-10	I・J-21
S B-5	S B-8	H-25	S B-16	S B-23	F-21	S B-27	S B-11	I・J-21
S B-6	S B-15	H-25	S B-17	S B-25	F-19	S B-28	S B-16	J-21
S B-7	S B-5	F-23	S B-18	S B-26	F-19	S B-29	S B-12	J-21
S B-8	S B-6	F-23	S B-19	S B-27	F-18	S B-30	S B-13	J-21
S B-9	S B-17	F-22	S B-20	S B-24	G-19	S B-31	S B-14	K-22
S B-10		G-22-23	S B-21	S B-19	H-20			
S B-11		G-23	S B-22	S B-18	H-19			

(3) 井戸跡

新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド
S E-1	S E-1	G-25	S E-7	S E-6	I-25	S E-13	S E-15	H-23
S E-2	S E-14	I-26	S E-8	S E-3	J-24	S E-14	S E-16	H-23
S E-3	S E-11	I-25	S E-9	S E-9	J-24	S E-15	S E-7	H-23
S E-4	S E-12	H-24	S E-10	S E-10	J-23	S E-16	S E-8	G-23
S E-5	S E-4	H-24	S E-11	S E-17	K-22	S E-17	S E-5	F-22
S E-6	S E-13	I-25	S E-12	S E-2	I-23	S E-18	S E-18	F-19

(4) 溝跡

新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド
S D-1	S D-26	C-27	S D-17	S D-19	H-20・21
S D-2	S D-2	F-23～F-27	S D-18	S D-15	G-20・21
S D-3	S D-1	F-24～G-27	S D-19	S D-16	G-20・21
S D-4	S D-3	E-21～E-24	S D-20	S D-20	G-21
S D-5	S D-27	E-21～F-21	S D-21	S D-12	H-21～F-22
S D-6	S D-6	J-21～F-23	S D-22		H-21
S D-7		G-22-23	S D-23	S D-10	H-21～G-21
S D-8	S D-5	I-20～J-25	S D-24	S D-25	G・H-21
S D-9	S D-7	J-24-25	S D-25	S D-17	G-19-20
S D-10	S D-8	J-25	S D-26	S D-13	F-19～F-22
S D-11	S D-9	J-23-24	S D-27		F-21
S D-12	S D-4	I-22-23～J-22	S D-28		F・G-20
S D-13	S D-22	J-22	S D-29	S D-21	F-21～F-20
S D-14	S D-11	G-17～K-24	S D-30	S D-14	G-18～H-21
S D-15	S D-24	H-20～I-20	S D-31	S D-23	G-19
S D-16	S D-18	H-20-21	S D-32	現代水路	G-18～I-26

(5) 土壌

新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド	新番号	旧番号	グリッド
SK-1	SK-5	E-27	SK-66		I-25	SK-131	SK-48	I-23
SK-2	SK-39	I-22	SK-67	SK-70	J-24	SK-132	SK-150	G-18
SK-3	SK-1	C-26	SK-68	SK-67	J-25	SK-133	SK-28	I-22
SK-4	SK-3	D-26	SK-69	SK-86	I-24	SK-134	SK-156	I-22
SK-5	SK-2	E-26	SK-70	SK-33	I-24	SK-135	SK-49	I-22
SK-6	SK-11	F-25	SK-71	SK-29	I-23	SK-136	SK-129	G-21
SK-7	SK-12	F-25	SK-72		I-23	SK-137	SK-104	H-22
SK-8	SK-13	F-25	SK-73	SK-200	I-23	SK-138	SK-103	H-22
SK-9	SK-197	G-26	SK-74	SK-76	H-24	SK-139	SK-168	I-20
SK-10	SK-16	G-25	SK-75	SK-75	H-24	SK-140	SK-41	J-22
SK-11	SK-15	G-26	SK-76	SK-79	H-24	SK-141	SK-59	F-23
SK-12	SK-51	G-25	SK-77	SK-80	H-24	SK-142	SK-160	F-18
SK-13	SK-60	F-23	SK-78	SK-72	J-23	SK-143	SK-159	F-18
SK-14	SK-61	G-24	SK-79	SK-95	K-23	SK-144	SK-158	F-18
SK-15	SK-105	G-22	SK-80	SK-131	I-22	SK-145	SK-50	I-23
SK-16	SK-107	G-21	SK-81	SK-69	H-21	SK-146	SK-50	I-23
SK-17	SK-108	G-21	SK-82	SK-130	H-23	SK-147	SK-163	F-18
SK-18	SK-111	G-20	SK-83	SK-121	H-21	SK-148	SK-162	G-18
SK-19	SK-116	G-20	SK-84	SK-134	J-22	SK-149	SK-164	G-18
SK-20	SK-92	I-25	SK-85	SK-202	H-24	SK-150	SK-164	H-18
SK-21	SK-87	I-25	SK-86	SK-190	G-27	SK-151	SK-98	G-23
SK-22	SK-32	I-24	SK-87	SK-195	G-26	SK-152	SK-122	H-21
SK-23	SK-37	H-24	SK-88	SK-43	J-24	SK-153	SK-36	H-24
SK-24	SK-30	I-24	SK-89	SK-89	J-22	SK-154	SK-23	F-23
SK-25	SK-34	J-24	SK-90	SK-199	J-22	SK-155	SK-139	G-19
SK-26	SK-46	H-24	SK-91	SK-47	I-23	SK-156	SK-57	G-23
SK-27	SK-66	J-24	SK-92	SK-196	I-23	SK-157	SK-54	F-23
SK-28	SK-68	I-24	SK-93	SK-44	I-23	SK-158	SK-55	F-23
SK-29	SK-71	J-24	SK-94	SK-192	G-27	SK-159		G-23
SK-30	SK-133	K-24	SK-95	SK-191	G-27	SK-160	SK-82	H-25
SK-31	SK-102	H-22	SK-96	SK-56	G-23	SK-161	SK-166	G-18
SK-32	SK-201	H-25	SK-97	SK-35	J-24	SK-162	SK-58	G-23
SK-33	SK-27	I-22	SK-98	SK-106	G-21	SK-163	SK-167	F-18
SK-34	SK-128	H-20	SK-99	SK-93	H-22	SK-164	SK-81	H-24
SK-35	SK-127	H-20	SK-100	SK-110	G-20	SK-165	SK-38	H-23
SK-36	SK-180	C-22	SK-101	SK-148	F-18	SK-166	SK-198	H-23
SK-37	SK-4	E-27	SK-102	SK-178	C-22	SK-167	SK-143	G-19
SK-38	SK-132	K-24	SK-103	SK-181	E-21	SK-168	SK-142	G-19
SK-39	SK-193	G-27	SK-104	SK-45	I-23	SK-169	SK-137	G-18
SK-40	SK-97	J-22	SK-105	SK-9	E-25	SK-170	SK-169	G-18
SK-41	SK-96	J-22	SK-106	SK-22	E-23	SK-171		G-18
SK-42	SK-187	D-20	SK-107	SK-155	E-21	SK-172	SK-171	G-18
SK-43	SK-183	D-20	SK-108	SK-174	F-22	SK-173		G-18
SK-44	SK-7	E-26	SK-109	SK-52	F-23	SK-174	SK-170	G-18
SK-45	SK-6	E-25	SK-110	SK-53	G-23	SK-175	SK-100	H-23
SK-46	SK-8	E-25	SK-111	SK-117	G-20	SK-176	SK-179	B-24
SK-47	SK-184	G-22	SK-112	SK-175	F-22	SK-177	SK-99	H-23
SK-48	SK-182	E-21	SK-113	SK-154	F-21	SK-178	SK-73	J-23
SK-49	SK-112	G-21	SK-114	SK-118	G-20	SK-179	SK-42	J-22
SK-50	SK-177	E-22	SK-115	SK-176	F-19	SK-180	SK-203	J-22
SK-51	SK-126	G-20	SK-116	SK-146	G-18	SK-181	SK-74	I-24
SK-52	SK-113	G-20	SK-117	SK-147	G-18	SK-182	SK-63	I-23
SK-53	SK-186	E-19	SK-118	SK-152	G-18	SK-183	SK-14	G-25
SK-54	SK-185	F-19	SK-119	SK-153	G-18	SK-184	SK-161	G-18
SK-55	SK-119	G-20	SK-120	SK-65	H-21	SK-185	SK-140	G-19
SK-56	SK-109	G-20	SK-121	SK-141	F-19	SK-186	SK-26	J-22
SK-57	SK-123	G-19	SK-122	SK-115	G-19	SK-187	SK-64	H-21
SK-58	SK-114	G-19	SK-123	SK-124	G-19	SK-188	SK-31	I-24
SK-59	SK-24	H-26	SK-124	SK-173	G-19	SK-189	SK-83	K-23
SK-60	SK-157	F-18	SK-125	SK-149	F-18	SK-190	SK-25	J-22
SK-61	SK-165	G-18	SK-126	SK-135	G-19	SK-191	SK-85	I-25
SK-62	SK-94	H-26	SK-127	SK-136	G-19	SK-192	SK-84	I-25
SK-63	SK-90	H-25	SK-128	SK-145	G-19	SK-193	SK-194	G-26
SK-64	SK-20	H-25	SK-129	SK-144	G-19			
SK-65	SK-91	I-25	SK-130	SK-151	G-18			

(6) 埋炭

新番号	旧番号	グリッド
SU-1	SU-1	C-26

(7) 集石土壌

新番号	旧番号	グリッド
SC-1	SC-1	E-26
SC-2	SC-2	H-26
SC-3	SK-10	E-25

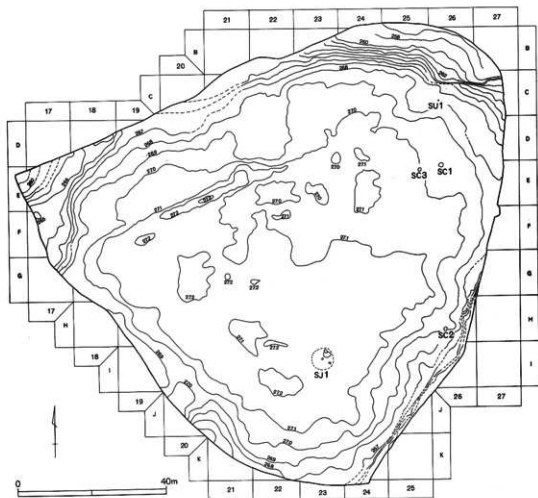
(8) 火葬墓

新番号	旧番号	グリッド
ST-1	ST-1	I-22
ST-2	SK-125	H-23
ST-3	SK-189	F-25
ST-4	SK-138	H-22
ST-5	SK-174	G-19

IV 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

足洗遺跡では縄文時代の遺構・遺物をわずかではあるが確認した。住居跡1軒、埋葬1基、集石土壇3基である。遺構群としてのまとまりはないが、遺跡の中央部でなく、周辺部に立地している。第1号住居跡、第1、3号集石土壇は標高のやや高い所に位置するが、第1号埋葬、第2号集石土壇は水田地帯に隣接する低い場所に位置する。



第5図 縄文時代の遺構 (縮尺 1/1,000)

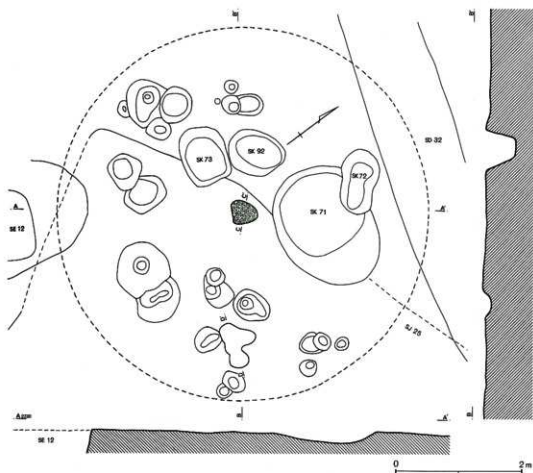
(1) 住居跡

第1号住居跡 (第6・7図)

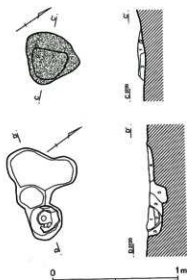
遺跡中央やや南寄り、I-23グリッドに位置する。第25号住居跡周辺を調査中に確認した。形態は円形であると思われるが、プランは炉跡と埋甕による推定である。住居の南側半分を第25号住居跡に、西側を第12号井戸跡に、北側を第32号溝跡に切られる。遺構中央は指鉢状にやや堀込まれる。どのピットが住居に伴うのかははっきりしなかった。炉跡は長径約45cm、短径約40cmの不整な円形で、約5cmほどの深さをもつ。埋甕は下半部のみで、3つの掘り込みを持つピットの1つから検出された。他に伴う遺物は検出されなかった。時期は、埋甕より縄文後期である。

出土した埋甕は、胴下半から底部にかけてであり、文様構成は定かでない。比較的幅広く、断面が蒲筍形の沈線で文様が描かれる。文様描出に先立って器面整形が施されているため、沈線に潰れた痕跡はない。文様は文様下部が連弧状に閉塞されており、残存部位の一端が上部に伸びることから、4単位構成の可能性もある。沈線間には縄文LRが沈線に沿って充填されている。底径は7.8cm。残存率は30%。

(細田 勝)



第6図 第1号住居跡



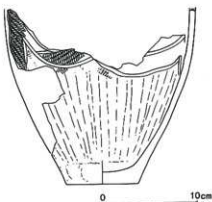
第7図 第1号住居跡・埋裏

第1号住居跡炉跡土層

- 1 暗赤褐色土 焼土を主体とし、黒色土、ローム粒子を混在する。
- 2 黄褐色土 焼けたロームを主体とする。

第1号住居跡埋裏土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を第1層より多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む、しまり良好。
- 4 黒褐色土 若干の焼土を含む。
- 5 黄褐色土 ロームを主体とする。

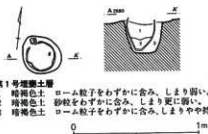


第8図 第1号住居跡埋裏土器

(2) 埋裏

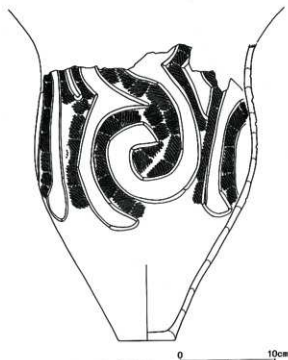
第1号埋裏 (第9図)

遺跡の北端、水田地帯に落込み始める肩の部分、C-26グリッドに位置する。周辺を詳細に確認調査したが、他に縄文時代の遺構は見つからず、単独の埋裏である。甕より、やや大きめの掘り込みを持ち、その中にはほぼ正位の状態で検出した。出土した埋裏は、胴上部でくびれ、口縁が直線的に開く深鉢形土器である。J字2段の基本モチーフ間に充墳文様を付加したもので、称名寺式の典型的文様構成といえる。J字文が縄文非施文部となっており、文様下端から底部にかけて縄文は施文されない。底径は6cmである。残存率は70%。(細田 勝)



第1号埋裏土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む、しまり弱い。
- 2 暗褐色土 砂粒をわずかに含む、しまり更に弱い。
- 3 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む、しまりやや増す。



第10図 第1号埋裏土器

第9図 第1号埋裏

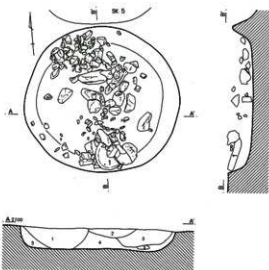
(3) 集石土塋

第1号集石土塋 (第11・12図)

遺跡北東、E-26グリッドに位置する。北側に新しい時期の第5号土塋と接するが、切り合いは無かった。境の壁がわずかであったため、崩れてしまい、遺構写真では一体に写ってしまった。

形態は長径約1.2m、短径約1.15mのほぼ円形で、深さは約15cmである。3基の集石土塋の中で最も遺存状態のよい遺構であった。覆土はロームブロックやローム粒子を含む褐色土、黄褐色土であった。覆土中には多数の被熱した礫が充填されており、その中には石皿が混じっていた。

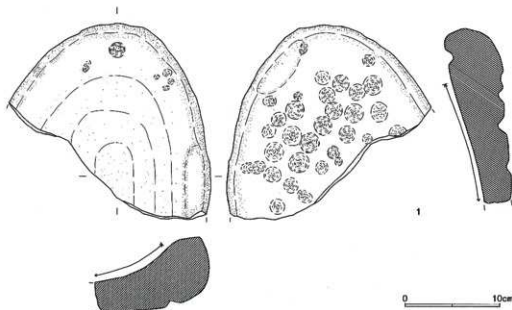
この石皿は表面がつるつるで滑らかで、きれいに窪む。裏面は凹石として使用されており、径1.7cmほどの孔が蜂の巣状にあげられている。



第1号集石土塋土層

- 1 黄褐色土 ロームブロックを主体とし、しまりやや弱い。
- 2 褐色土 ローム粒子、ブロックを含み、しまり弱い。
- 3 暗褐色土 ロームブロックをわずかに含む。
- 4 褐色土 ローム粒子を多く含む、しまり持つ。
- 5 黄褐色土 ローム粒子を主体とし、しまり持つ。

第11図 第1号集石土塋



第12図 第1号集石土塋出土石器

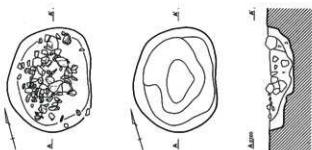
第1号集石土塋出土石器 (第12図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	出土位置・その他
1	石皿	20.6cm	21.4cm	7.8cm	2.83kg	砂岩	裏面は凹石として利用される。

第2号集石土壇 (第13図)

遺跡南東部、H-26グリッド、遺跡東側の水田地帯に隣接する位置にあるため地山はローム混じりの黒褐色土であった。

形態は楕円形で、長径約82cm、短径約65cm、深さは約18cmである。覆土は第1号集石土壇と同様、被熱した礫で充填されていた。遺物は検出しなかった。



- 第2号集石土壇土層
- 1 黒褐色土 ローム粒子、炭化物を含み、きめ細かい。
 - 2 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子を含み、しりとり持つ。

第13図 第2号集石土壇

0 1m

第3号集石土壇 (第14図)

遺跡北東部、E-25グリッド、第1号集石土壇の西側約6mに位置する。形態は円形で、長径95cm、短径90cm、深さは約15cmである。3基の集石土壇の中では遺存状態のよくない遺構である。やや少なめだが、部分的に被熱した礫を覆土中に検出した。遺物は検出しなかった。



- 第3号集石土壇土層
- 1 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、きめ粗い。
 - 2 褐色土 ローム粒子を多く含み、しりとり強い。

第14図 第3号集石土壇

0 1m

(4) その他の遺物

足洗遺跡では古墳時代後期以降の住居跡や土壇の覆土から縄文土器や石器を検出しており、ここでグリッド出土、表採遺物とともに遺跡一括出土の遺物として報告する。

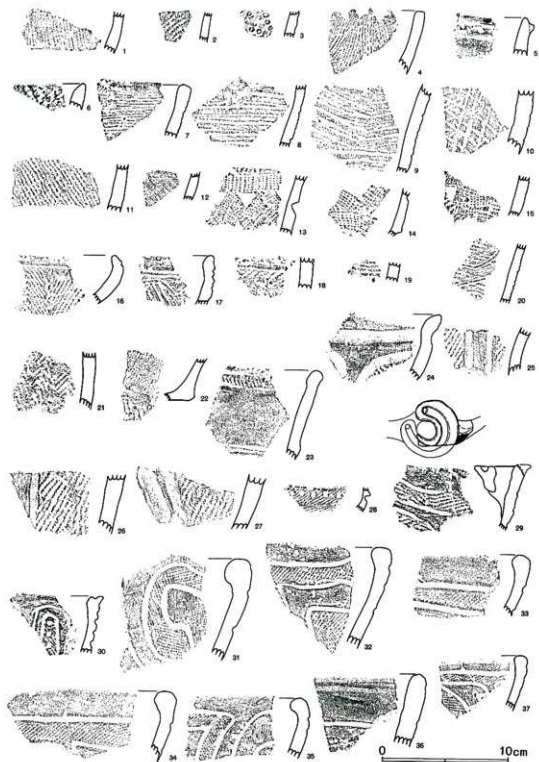
土器 (第15・16図)

I類 (1～4)

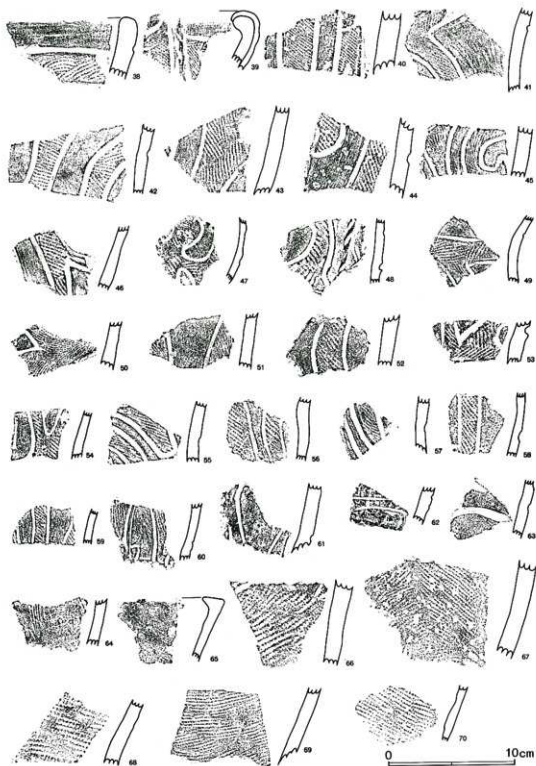
縄文時代早期の土器を一括した。1・2は燃糸土器、3は押形文土器である。4は口唇上に押圧が加えられ、小波状口縁としたもので、器内外面に貝殻条痕文が施されている。

II類 (5～15)

縄文時代前期の土器群を一括した。本類は前期中葉のa種 (5～10)、前期後半のb種 (12～15)と2分される。5～7は口縁部で、7は縄文施文のみ。7～9の文様はいずれも半截竹管で横ないしは斜行する沈線文が施文されている。10は格子目状の沈線文が施文されている。b種13～15は結節沈線文と三角印刻を持つ土器群で、広義の十三菩提式に含まれる。



第15図 一括出土の土器(1)



第16図 一插出土の土器(2)

Ⅲ類 (16~27)

縄文時代中期の土器群を一括した。中期初頭の五領ヶ台式に比定されるa種(16~22)、勝坂式終末に比定されるb種(23)加曾利EⅢ式に比定されるc種(24~27)に分類される。

Ⅳ類 (28~70)

称名寺式土器を本類とした。文様は胴くびれ部を境に2段J字文が描かれる土器が主体を占め、さらに39や48のように、器面に隆帯が貼付された土器も少量ながら含まれている。口縁は平縁の他に31のような波状口縁も含まれる。29は口唇上に環状の突起を持つ。突起頂部には刺突を挟んで沈線が描かれるようである。沈線は幅4~5mmで比較的大く描出されている。沈線間に充填される縄文は全てLである。65は口唇内側が突出し、型式的に新しい特徴を備えている。1点のみ出土。66~70には縄文施文のみの破片を一括した。

(細田 勝)

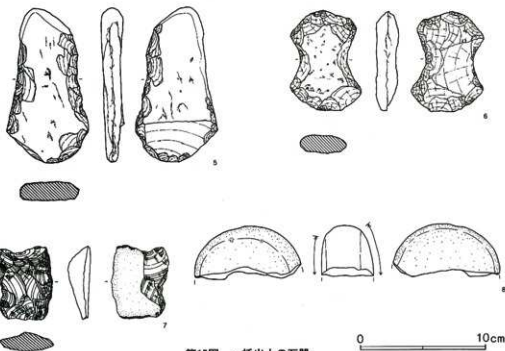
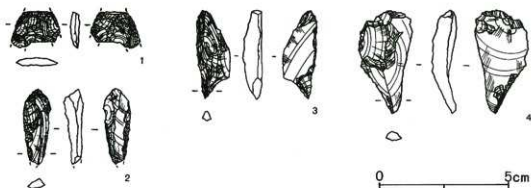
一括出土の縄文土器一覧

分類番号	出土位置	分類番号	出土位置	分類番号	出土位置
I	1 S J-8・No.4	Ⅲ	25 S J-8・覆土	Ⅳ	49 S K-1・No.2
2 S K-1・覆土		26 S K-1・No.8		50 S J-20・覆土	
3 S K-1・No.30		27 S J-4・No.51		51 S J-32・覆土	
4 S J-8・No.57		Ⅳ	28 S K-97・覆土	52 S J-32・覆土	
Ⅱ	5 S J-10・No.17	29 S J-21・P6		53 S J-15・覆土	
6 S J-11・No.59		30 S J-20・No.257		54 S J-20・No.374	
7 S K-1・No.12		31 S J-21・No.23		55 S J-20・覆土	
8 S J-8・No.24		32 S J-21・No.4		56 S K-1・No.25	
9 S J-24・覆土		33 S J-20・No.84		57 S J-15・覆土	
10 S J-24・覆土		34 S K-191・覆土		58 S J-11・No.78	
11 S J-18・No.107		35 S J-4・No.29		59 S J-18・No.178	
12 S J-2・No.7		36 S J-24・覆土		60 S J-14・No.55	
13 S J-21・No.3		37 S J-21・覆土		61 S J-22・No.5	
14 S J-8・No.15		38 S J-34・覆土		62 S J-22・No.35	
15 S J-21・No.56		39 S J-16・No.37		63 S J-16・No.414	
Ⅲ	16 S K-3・覆土	40 S J-21・No.29		64 S J-15・周溝	
17 S B-7・P11		41 S J-21・No.21		65 S J-18・覆土	
18 S B-7・P11		42 S J-25・No.24		66 S J-29・30・31・覆土	
19 S J-12・覆土		43 S J-20・覆土		67 S J-21・No.28	
20 S K-3・覆土		44 S J-24・覆土		68 S J-21・No.43	
21 S B-7・P11		45 S J-20・覆土		69 S J-24・覆土	
22 S J-8・覆土		46 S J-18・No.166		70 S K-88・覆土	
23 S B-1・P1		47 S B-5・P4			
24 S J-32・覆土		48 S J-20・P4			

石器 (第17図)

足洗遺跡ではわずかながら、石器を検出している。これらは土器と同様に遺構に伴う状態で検出されていない。

1は石鎌。基部にしっかりとした袂を持つ凹基の無茎鎌で、丁寧な作り。上部と基部両側先端を欠損する。2は石錐。断面がひし形で、両側縁に調整を施した棒状タイプのもので、先端部を欠損。5・6は打製石斧。5は長楕円形の端部に調整剝離を施した石斧である。石質は緑泥片岩に似るが、筋状の構造を持たないので緑色岩類として報告する。6は楕形の形態である。7は搔器。長辺に連続的で細かい調整を施し、刃部を作る。8は磨石。偏平な砂岩の円礫を使用しており、両面とも滑らかで、つるつるしている。他に黒曜石の原石を検出した。側面を4つ、上面を2つ、底面を1つを持つ、7面体の立体で、各面とも滑らかである。長さ3.8cm、幅3.9cm、厚さ2.6cm、SK-59出土。(写真図版17 下段参照)



第17図 一括出土の石器

一括出土の石器 (第17図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	出土位置・その他
1	石鏃	1.4cm	1.8cm	0.3cm	0.9g	黒曜石	SJ-18・No72・床上17cm
2	石鏃	2.9cm	1.0cm	0.7cm	1.5g	黒曜石	SJ-10・覆土一括
3	石鏃	3.4cm	1.3cm	0.7cm	2.7g	黒曜石	E-26 グリッド一括
4	石鏃	3.9cm	2.0cm	0.8cm	4.9g	黒曜石	SJ-27・覆土一括
5	打製石斧	12.3cm	6.5cm	1.3cm	170g	緑色岩類	SK-5・No17・床上10cm
6	打製石斧	8.0cm	5.6cm	1.6cm	80g	砂岩	SK-5・No1・床上7cm
7	槌器	5.8cm	4.4cm	1.8cm	40g	黒曜石	SK-55・覆土一括
8	磨石	4.2cm	8.4cm	4.1cm	185g	砂岩	H-26 グリッド一括

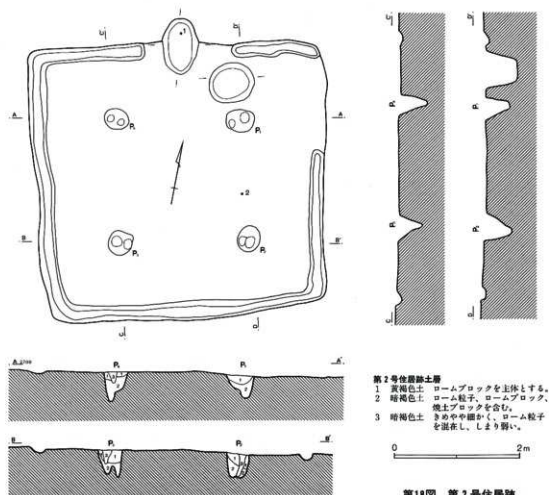
2 古墳時代後期以降の遺構と遺物

(1) 住居跡

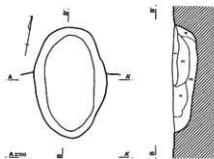
第2号住居跡 (第18～20図)

遺跡北東部、D-26グリッドに位置する。形態は方形である。住居の規模は長径4.5m、短径4.4mで、覆土はなく、周溝によるプランの確認である。主軸方向はN-10°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは住居北壁ほぼ中央にあり、袖が無く、燃焼部があるだけの簡単な遺存状態である。貯蔵穴は72cm×65cmの楕円形で深さ約52cm。貯蔵穴とカマドは近接した位置にある。貯蔵穴は、深さが他の住居跡に比べ、やや深い。周溝は幅約25cmで、カマド部分と住居西側の一部を除き全周する。ピットは4本で主柱穴を構成する。各主柱穴の掘方に2本の柱痕が見られることから、柱の建て替えがあったと想定され、土層観察から柱は外側に建て替えたとと思われる。

覆土のない住居跡なので遺物は非常に少ないが、カマド覆土から環、床面直上から碗を検出した。遺構の時期は、出土遺物より稲荷前Ⅷ期であろう。

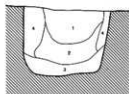


第18図 第2号住居跡



第2号住居跡貯蔵穴土層

- 1 暗褐色土 きめ細かく、しまり持ち、サラサラしたローム粒子を混在。しまり1層に比べやや弱く、ソフトロームを主体とする。しまり強く、若干のローム粒子を混在。ロームブロック、ローム粒子を含み、しまり弱い。
- 2 暗褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 褐色土

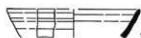


0 1m

第2号住居跡カマド土層

- 1 赤褐色土 焼土粒子、炭化粒子を多く含む。
- 2 赤褐色土 第1層に比べ焼土粒子がやや大きい。
- 3 褐色土 ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロックを含む。

第19図 第2号住居跡カマド・貯蔵穴



0 10cm

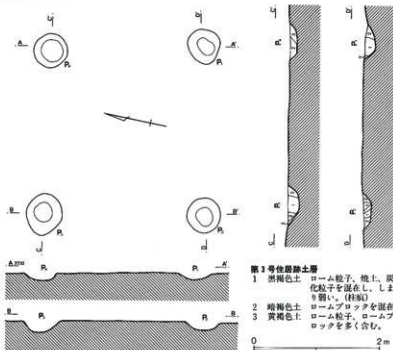
第20図 第2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	環	(14.0)			B C G	A	暗青灰	5%	Na 2・カマド床上 8 cm
2	碗	(17.0)			B C F	A	暗青灰	5%	Na 5・床面直上

第3号住居跡(第21図)

遺跡北東部、D-25グリッドに位置する。住居跡としては第2号住居跡と共に最北端に立地する。4本の主柱穴だけの確認であるが、付近に同規模の住居跡群があるので、住居跡とした。主軸方向は不明だが、主柱穴の長軸に合わせ、ほぼ東向きの住居跡と報告しておく。P1・P2・P3に柱痕が確認できた。検出できた遺物はなかった。



第3号住居跡土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子、焼土、炭化粒子を混在し、しまり弱い。(柱痕)
- 2 暗褐色土 ロームブロックを混在。
- 3 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。

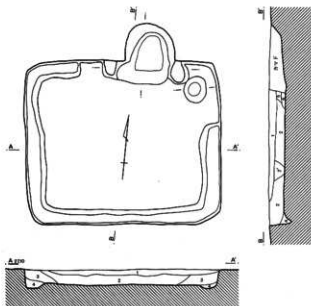
第21図 第3号住居跡

第4号住居跡（第22～24図）

遺跡北東部、D-26グリッドに位置する。形態は横長の長方形で、小形の住居跡である。規模は長径が約3.1m、短径が約2.6m、深さは約25cmである。主軸方向はN-5°-Wで、ほぼ北向き住居跡である。覆土の状況はローム粒子を含む黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土による自然堆積であった。カマドは北壁中央よりやや右側に位置し、貯蔵穴に寄る。カマドの遺存状況は、あまりよくなかった。8層が袖の遺存部であり、6層も袖を補強するものである。7層はカマドの掘方、4層が灰層であり、2、3、4層がカマド使用時の天井部崩落土であろうと思われる。貯蔵穴の形は楕円形で、規模は約43cm×36cm、深さ約22cmである。周溝は幅約30cm、深さ約5cmで、カマド部分、東壁の貯蔵穴付近を除き全周していた。ピットはなかった。

出土遺物は、ほぼ床面直上から覆土中層にかけてのものであり、本住居跡に帰属すると思われる。1の坏は底部外面に寛記号を持ち、焼きがよく、体部中位でやや屈曲気味に外に張る。2の椀は底部に墨書があるが、不鮮明である。赤外線透視により「貫女」と解したが、「貫安」の可能性もある。器壁が厚く、外面はロクロナゲでにより、滑らかである。内面は体部中位で緩やかに内湾する。3の甕は器壁が薄い土器である。4の甕は器壁が薄く、内外面とも滑らかで口縁内面端部でやや内湾

する。5は口縁内面上半に浅い凹線を持ち、外面はヨコナゲがやや雑で、指押え痕や輪積み痕を部分的に残す。6は口縁部と脚部の先端を欠く小形の台付甕で、色調がやや黒色気味の暗褐色である。遺構の時期は、出土遺物から稲荷前VII期であろう。



第22図 第4号住居跡

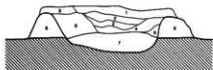
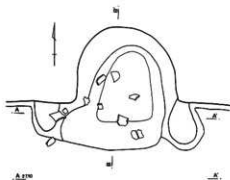
第4号住居跡土層

- 1 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックをわずかに含む。
- 4 暗褐色土 きめやや粗かくローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土 きめ細かくローム粒子、炭化粒子を含む。
- 6 赤褐色土 焼土粒子、炭化粒子を混在。
- 7 褐色土 きめ細かくローム粒子を少量含む。

0 2m

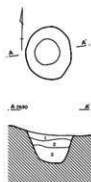
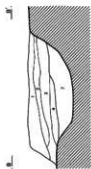
第4号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(15.1)		(11.0)	BCFG	B	暗青灰	20%	No1・周溝出土、左回りの回転鑑割り
2	椀	(15.6)	(5.5)	(10.6)	BCF	A	暗青灰	40%	No13・床面直上、左回りの回転鑑割り
3	甕	(17.8)			BCFG	A	橙	30%	No43・床上0～2cm
4	甕	(21.6)			BEFG	A	淡橙	15%	No2・7・8・12・床上0～11cm
5	甕	(21.6)			BC	A	黄橙	15%	No47・床面直上
6	台付甕	(9.0)			BFG	B	暗褐	60%	No40・43・49・床上0～14cm



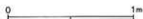
第4号住居跡カマド土層

- 1 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子、炭化粒子を含む。
- 2 明褐色土 1層より明るく、焼土、炭化粒子、粘土ブロックを混在。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを混在し、しまり持つ。
- 4 黒褐色土 炭化物を主体とする。(灰層)
- 5 茶褐色土 1層に近似し、焼土、ローム粒子を多く含む。
- 6 茶褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子を含む。
- 7 黄褐色土 カマドの掘方
- 8 黄褐色土 カマド袖遺存部で、ロームを多量に含む。

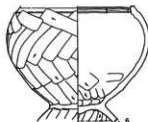
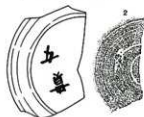
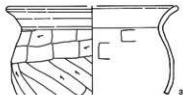
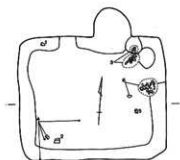


第4号住居跡貯蔵穴土層

- 1 黒褐色土 きめ細かく、ローム粒子を若干含む。
- 2 黄褐色土 きめ粗雑でしまり弱くローム粒子を主体とする。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを主体とし、しまり均つ。



第23図 第4号住居跡カマド・貯蔵穴



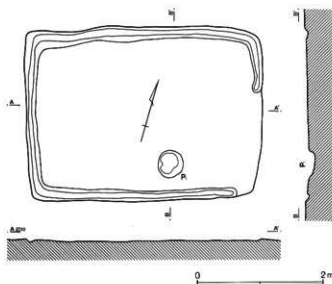
第24図 第4号住居跡出土遺物

第5号住居跡（第25・26図）

遺跡北西部、E-26グリッド、第4、第6号住居跡の中間に位置する。カマドはなかった。形態は横長、あるいは縦長の長方形である。本遺構のすぐ近くにある第2、4、6号住居跡の主軸に合わせ、横長の住居跡として報告する。住居跡の規模は長径約3.8m、短径約2.8m、深さ約2cmで、ほとんど覆土はなく、周溝による住居跡プランの確認であった。主軸方向はN-18°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。周溝は幅約18cm、深さ約3cmで、東壁を除き全周していた。ビットは1基、南壁付近でP1を検出した。

遺物はP1から出土したのみである。遺物1は色調が白色気味で、器壁が薄く、外面はロクロナデ

がやや鈍い、退化した感じのする椀である。遺構の時期は、椀から稲荷前IX期であろう。



第25図 第5号住居跡



第26図 第5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	椀	(17.0)			BCG	A	灰白	5%	P1覆土一括

第6号住居跡（第27～29図）

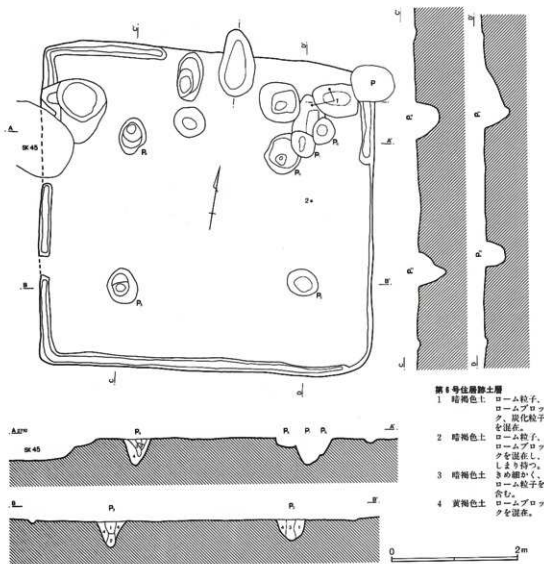
遺跡北東部、E-26グリッド、第5号住居跡のすぐ南側に位置する。形態は方形である。規模は長径か5.3m、短径か5.15mで、付近の住居跡群の中では大形である。深さはほとんどなく、土層断面はとれなかった。

第45号土壌に切られる。また貯蔵穴東側のビット、カマド両脇のビット、P4左側の土壌状の掘込みは本住居跡に伴わないと思われる。

主軸方向はN-9°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは北壁中央より、やや貯蔵穴に寄る。カマドは遺存状況が悪く、浅い燃焼部だけの確認であった。土層観察から燃焼部の残遺は1、2層で、3層は掘方である。貯蔵穴は72cm×52cmの楕円形で、深さは約28cmである。周溝は幅約25cm、深さ約4cmで、東壁は一部、南壁は全周、西壁は断続、北壁は西側部分に確認できた。

主柱穴はきれいに巡り、P1・P2・P3・P4の4本である。柱穴覆土は1、2、3層が柱根、あるいは柱抜き取り痕で、4層が柱根を押えた層であろう。

住居跡の覆土がほとんどなかったため、遺物もわずかである。1の坏は色調が淡く、白色針状物質を含まない北武蔵系の坏である。2の蓋は残存率の少ない小片で、器壁は薄い。遺構の時期は、貯蔵穴出土の1の坏から稲荷前VI期であろう。



第27図 第6号住居跡

第6号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(14.2)			BEG	A	淡橙	10%	Na.2・3・貯蔵穴床土0~25cm、北武蔵系
2	蓋	(17.4)			BCG	A	青灰	5%	Na.7・床土3cm



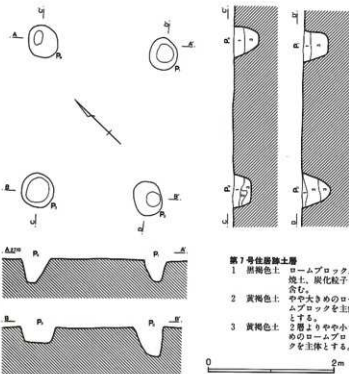
第28図 第6号住居跡カマド・貯蔵穴



第29図 第6号住居跡出土遺物

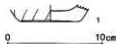
第7号住居跡 (第30図)

遺跡北東部、E-26グリッド、第6、第8号住居跡の中間に位置する。主柱穴のみの確認である。主軸方向は不明だが、主柱穴の長軸に合わせ、北東向きの住居跡として報告する。主軸方向はN-49°-Eである。



各柱穴は大きく、しっかりとしているが、柱痕は確認できなかった。

遺物は甕の底部が検出されたが、小片であるので、時期ははっきり決められないが、古墳時代後期であろう。



第30図 第7号住居跡・出土遺物

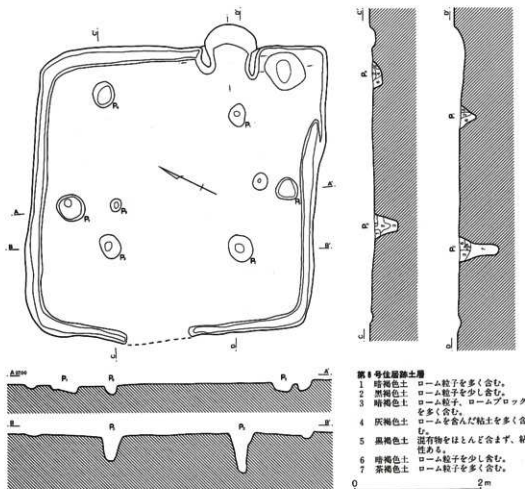
第7号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺			6.5cm	BFG	A	淡橙	5%	柱穴覆土一括

第8号住居跡 (第31-33図)

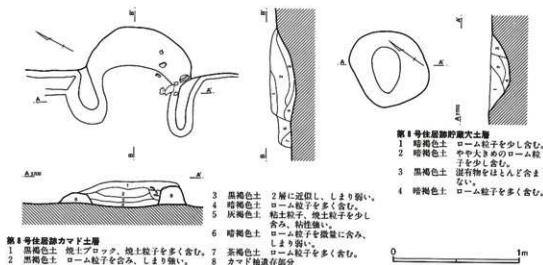
遺跡北東端、F-27グリッドに位置する。形態はやや歪んだ方形である。住居跡の規模は長径、短径とも4.6m、深さはほとんどなく、断面図はとれなかった。主軸方向は北東向きで、N-64°-Eである。カマドは北東壁、貯蔵穴寄りに位置し、遺存状態はよくなかった。袖はロームを含む暗褐色土で構築されていた。カマド断面の3、4層がカマドの掘方である。貯蔵穴は約60cm×約55cmで、深さは約15cmである。周溝は貯蔵穴付近とカマド反対側の壁中央部分を除き全周し、幅は約20cmである。ピットは8本検出され、そのうち主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本と思われるが、P4はやや位置が合わない。

遺物はカマドと貯蔵穴付近から検出された。1の坏は遺存状態悪く、器面の荒れが著しい。外面の

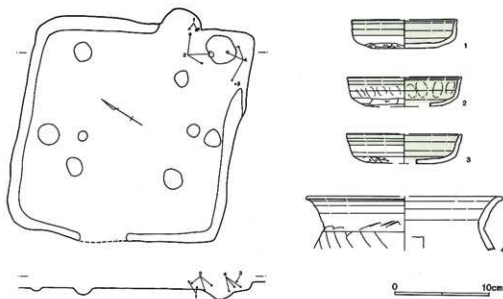


第31図 第8号住居跡

赤彩もやや不明瞭。口縁内面に沈線を持ち、口縁がほぼ直立する。2は赤彩が明瞭に施され、口縁内面に沈線を持ち、口縁はやや外反する。3は赤彩がやや不明瞭で、口縁内面に沈線を持たない。4の裏は色調が淡く、口縁端部が摘み出る。遺構の時期は、遺物から稲荷前IV期であろう。



第32図 第8号住居跡カマド・貯蔵穴



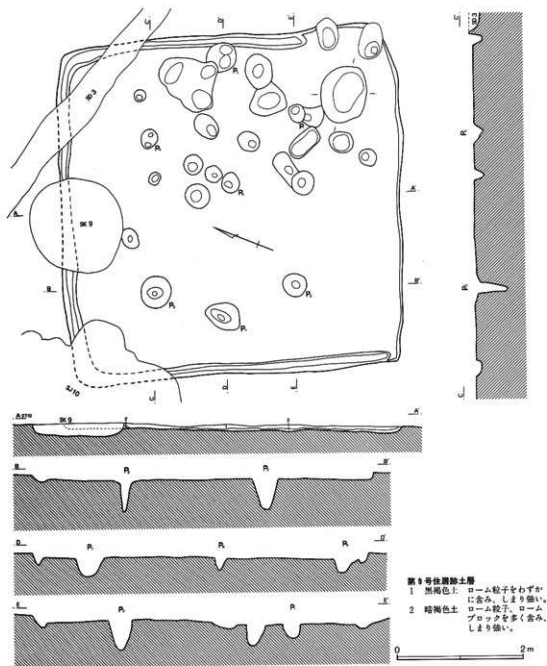
第8号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.0)	3.0		BCFG	B	赤褐	40%	No94・99・カマド床上0~21cm、赤彩
2	坏	(12.0)	(3.1)		BCFG	A	にんじ	20%	No20・87・95・床上4~27cm、赤彩
3	坏	(12.0)	(3.1)		BCDG	B	赤褐	10%	No35・床上16cm、不明瞭な赤彩
4	甕	(20.2)			ABCD FG	A	浅黄橙	15%	No29・61・65・床上7~14cm、覆土一括

第9号住居跡 (第34~36図)

遺跡東部、G-26グリッドに位置する。形態は方形で、カマドは無かった。住居跡北東隅を第3号溝跡に、北壁中央を第9号土壇に、北西隅を第10号住居跡に切られていた。

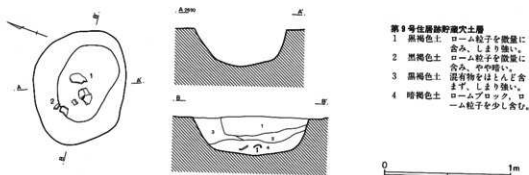
規模は長径約5.5m、短径約5.4m、深さは約12cmである。主軸方向はカマドがなかったので確定できないが、貯蔵穴を住居跡東壁右側と想定し、東向きの住居跡として報告する。主軸方位はN-69°-E



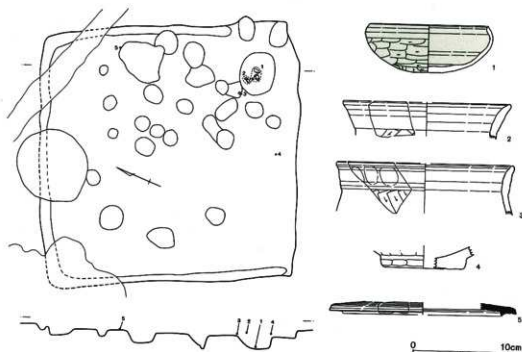
第34図 第9号住居跡

である。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積で、床面はあまり硬くなく、むしろ柔らかいほうであった。貯蔵穴は90cm×73cmの楕円形で、深さは約30cmである。周溝は南壁を除き全周し、幅は約15cmである。ピットは24本検出されたが、本住居跡に伴うものは少ない。主柱穴と思われるピットはP1・P2・P3・P4の4本である。P5・P6・P7も直線に並ぶので、主柱穴を補助的に構成するものかも知れない。

1の坏は貯蔵穴からの出土で、器壁薄く、外面は篋削りだが滑らかで、口縁部は内湾する。2、3の甕は小片で、共に色調が淡い。4の壺は底部のみの小片であり、色調は褐色が強く、ぼつてりした作りである。5の蓋は混入遺物であると思われる。造構の時期は、1の貯蔵穴出土の坏から古墳時代後期前半であろう。



第35図 第9号住居跡貯蔵穴



第36図 第9号住居跡出土遺物

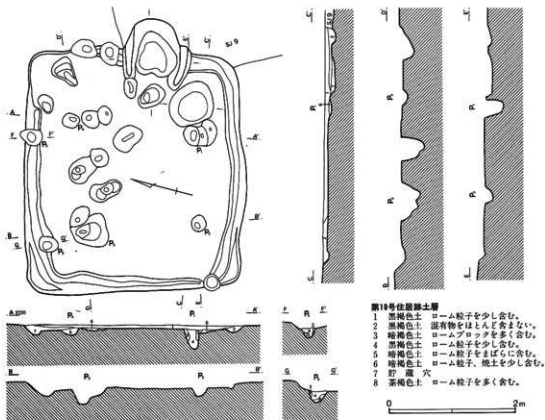
第9号住居跡出土遺物観察表 (第36図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.4	5.0		BCGI	A	赤褐	60%	Na1・貯蔵穴床上9cm、赤彩
2	甕	(17.4)			ABCFG	A	淡黄橙	5%	Na2・貯蔵穴床上33cm
3	甕	(18.4)			ABCFG	A	淡黄橙	5%	Na10・床上7cm
4	壺			(8.3)	ABCG	A	橙	5%	Na17・床上5cm
5	壺	(19.6)			BCG	A	暗青灰	5%	Na26・床上31cm

第10号住居跡 (第37~39図)

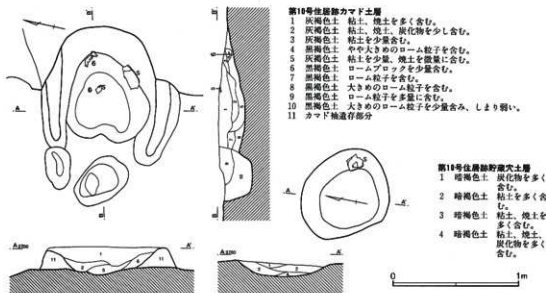
遺跡東部、G-26グリッドに位置し、第9号住居跡を切る。形態はやや歪んだ縦長の長方形である。住居跡の規模は長径3.85m、短径3.55m、深さは約5cmである。主軸方向はN-73°-Eで、北東向きの住居跡である。カマドは遺存状態が悪く、袖はロームを含んだ黒褐色土で構築されていた。袖の下に2つのピットはカマドと関係ない新しい時期のものである。貯蔵穴は約73cm×63cm、形態は楕円形で、深さ約10cmである。焼けた板状の緑泥片岩を貯蔵穴床面上から検出した。周溝は北壁隅のコーナーを除き全周し、幅は約25cmである。住居跡全体にピット状の擾乱が多く、本住居跡に伴うピットは少ない。本主柱穴と思われるのがP1・P2・P3・P4の4本である。周溝中にあるP5、P6は覆土の様子から柱痕と思われる。

1の坏は小片の黒色土器で、体部と底部の境に陵を持って口縁は外反する。2の須恵器坏はP1

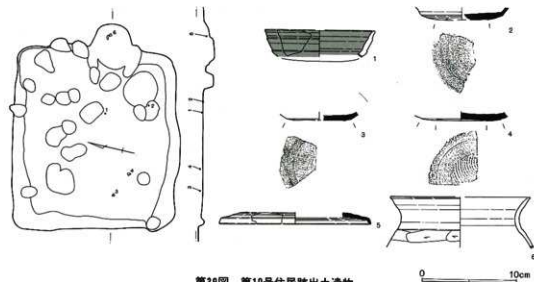


第37図 第10号住居跡

出土の土器で、底部はやや厚く、体部は薄目である。底部の回転斲削りは底部の平らな部分までである。6の甕は口縁部、体部とも器壁が薄く、体部は厚さ約2mmである。遺構の時期は、カマド出土の甕やピット出土の須恵器環から稲荷前IX期であろう。



第38図 第10号住居跡カマド・貯蔵穴



第39図 第10号住居跡出土土遺物

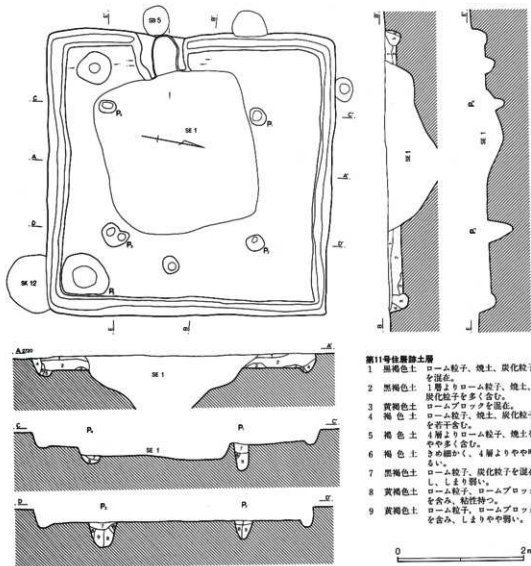
第10号住居跡出土土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.5)			BCEFG	B	黒褐	5%	Na16・床上2cm、黒色土器
2	坏			8.7cm	BCFG	A	暗青灰	10%	P1、左回りの回転斲削り

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
3	坏			(6.8)	ABCF	A	暗青灰	10%	No29・床上6cm、左回りの回転篋削り
4	坏			(8.4)	ABCFG	A	暗青灰	10%	No30・床上5cm、回転糸切後回転篋削り
5	蓋	(16.0)			BCG	C	灰白	5%	覆土一括
6	甕	(14.6)			BEFG	B	橙	15%	No38・カマド床上6cm

第11号住居跡 (第40~42図)

遺跡東部、G-25グリッドに位置し、形態は方形である。規模は長径4.6m、短径4.5m、深さは約20cmである。第1号井戸跡に住居跡中央を大きく切られていた。また第5号掘立柱建物跡が西壁に隣接する。主軸方向はN-100°-Wで、ほぼ西向きの住居跡である。カマドは西壁中央部より貯蔵穴



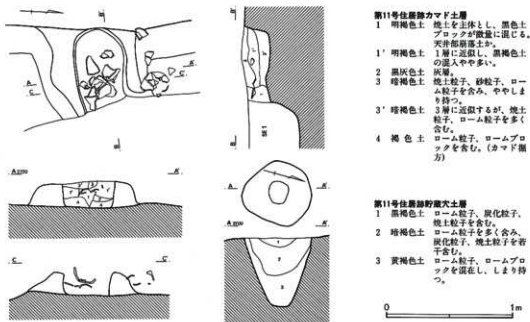
第11号住居跡土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子、焼土、炭化粒子を混在。
- 2 黒褐色土 1層よりローム粒子、焼土、炭化粒子を多く含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを混在。
- 4 褐色土 ローム粒子、焼土、炭化粒子を若干含む。
- 5 褐色土 4層よりローム粒子、焼土をやや多く含む。
- 6 褐色土 きめ細かく、4層よりやや明るい。
- 7 黒褐色土 ローム粒子、炭化粒子を混在し、しりり弱い。
- 8 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、粘り持つ。
- 9 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、しりりやや弱い。

第40図 第11号住居跡

に寄る。袖はロームを含んだ暗褐色土で構築され、先端は第1号井戸跡に壊されていた。煙道部は住居跡の中にほぼおさまる。右袖と燃焼部に裏を検出した。貯蔵穴は56cm×48cmの円形で、深さは約54cmと非常に深い。周溝は幅約20cmで、住居跡を全周する。ピットは6本。そのうち主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本である。床面は全体的に硬く、しっかりとしていた。住居跡南東隅のP5は深さ約55cmで、貯蔵穴と同じ深さである。本住居跡に伴うか不明。

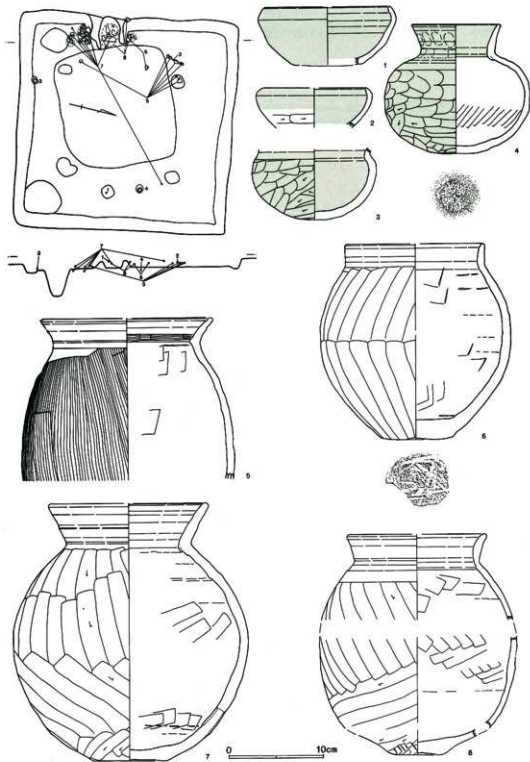
出土遺物は、カマドやピット内、ほぼ床上近くのもので本住居跡に伴うと考えられる。1の坏は外面体部中位から肩部にかけてやや外反し、口縁部は丸みを帯び、内湾する。外面の荒れがひどく整形は不明である。3の碗は口縁部先端が欠けるだけの完形に近い土器で、外面は篋割りされているが、滑らかである。内面は風化が激しく整形は不明。4の小形壺もほぼ完形に近く、体部外面は胎土によるざらつきを感じるが、均整のとれた形の壺である。5の甕外面は木口ナデ整形である。6の甕は底部に木葉痕を持つ。7は大形の壺で、体部下半に粘土紐積上げ時の接合痕を持つ。遺構の時期は、出土遺物より古墳時代後期前半であろう。



第41図 第11号住居跡カマド・貯蔵穴

第11号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

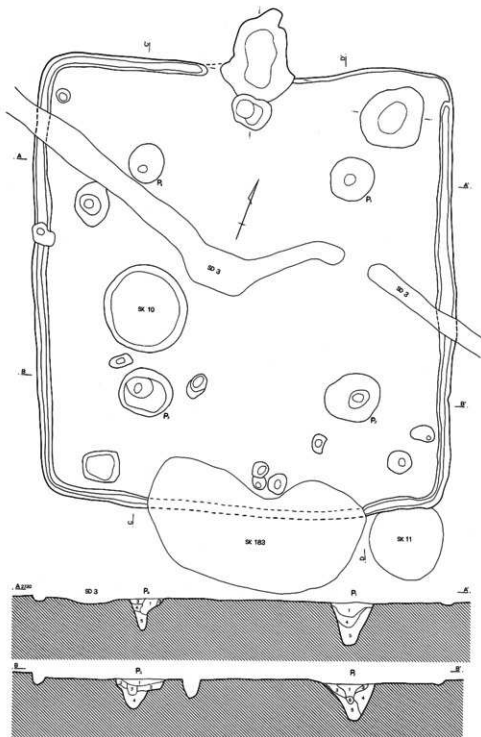
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.2)	(6.0)		BCGI	A	赤褐	30%	Na46・ピット床上21cm覆土一括、赤彩
2	坏	(10.9)			BEG	A	赤褐	5%	Na8・床上2cm、赤彩
3	碗				ABCEG	A	赤褐	90%	Na69・床上2cm、赤彩
4	小形壺	9.0	13.5	3.6	ABEG	A	赤褐	95%	Na27・床面直上、底部に篋記号あり、赤彩
5	甕	(17.4)			ABCFG	A	淡橙	30%	Na6・9・18・31・床上2~11cm
6	甕	(14.2)	20.5	(7.4)	ABDEG	A	淡橙	30%	Na76・カマド右袖、SE1・Na2覆土一括
7	壺	(16.4)	27.0	7.6	ABCDGFI	B	淡橙	80%	Na30・32・33・75・カマド出土
8	甕	(14.4)	(4.1)		ABCEG	A	淡橙	40%	Na75・76・77・カマド出土



第42图 第11号住居跡出土遺物

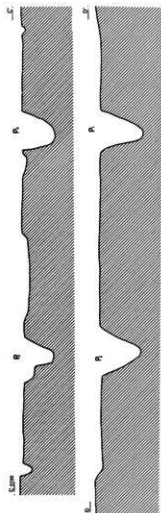
第12号住居跡（第43～45図）

遺跡東部、G-25グリッド、第10号住居跡の西側に位置する。第3号溝跡、第10号土壁に切られ



第43図 第12号住居跡

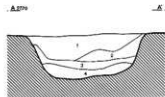
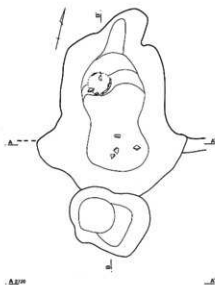
ていた。形態は縦長の長方形である。規模は大きく、長径約7m、短径約6.75mで、深さはほとんどなかった。主軸方向はN-17°Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは北壁中央に位置する。袖は無く、燃焼部も浅く、遺存状態はよくなかった。燃焼部奥に床面から約16cm浮いた状態で倒立した鉢の口縁部が検出されたが、燃焼部床面と間層が入るので支脚として使われたとは思われない。焚口下のピットは焼土や炭化物が検出できなかったためカマドの施設とは関係なく、新しいものである。貯蔵穴は約70cm×68cmの不整形で、深さは約33cmである。周溝は幅約15cmで、貯蔵穴部分を除き全周する。主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本である。



第12号住居跡土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少し含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 小さなロームブロックを多く含む、しまり弱い。
- 5 暗褐色土 4層に近似するが、ロームブロックは大きい。
- 6 ロームブロック

0 2m



第12号住居跡カマド土層

- 1 赤褐色土 焼土を主体とし、しまり持つ。
- 2 明褐色土 ローム粒子、焼土粒子を混在し、しまり持つ。

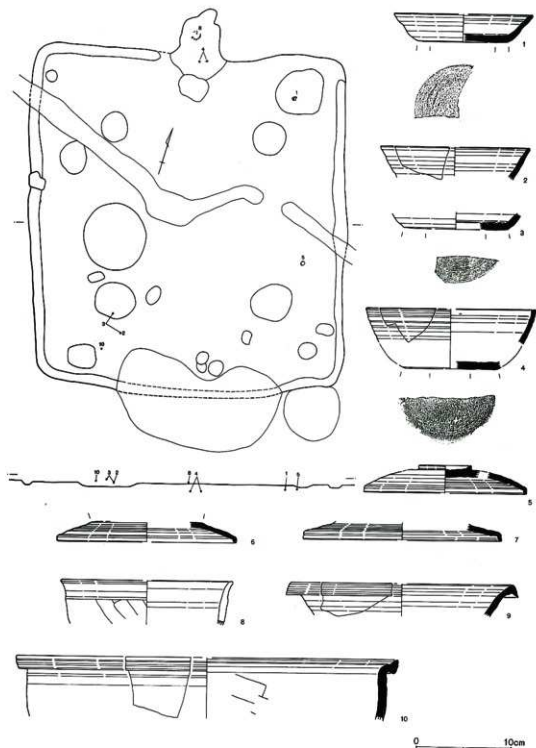
第12号住居跡貯蔵穴土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少し含む、やや明るい。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を微量に含む、やや暗い。
- 3 暗褐色土 やや粒の大きいローム粒子をまばらに含む。
- 4 暗褐色土 炭化物、ロームブロックを多く含む。

0 1m

第44図 第12号住居跡カマド・貯蔵穴

1の坏は烧きがよく、底部と体部の境がやや屈曲気味で、体部外面中位の湾曲が大きい。内面底



第45図 第12号住居跡出土遺物

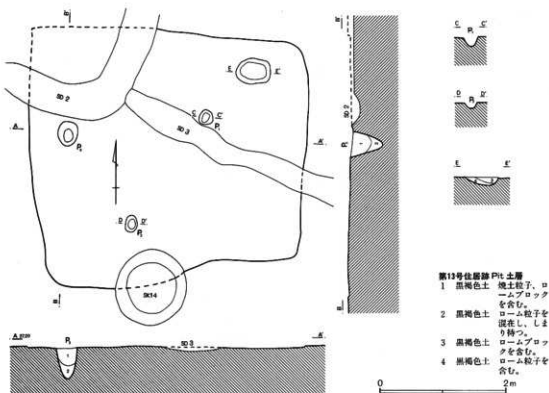
部と体部の境には沈線が通る。4の柄は外面はロクロナデによる微妙な凹凸を持ち、口縁内面の屈曲はやや緩やかである。5の蓋は焼きの悪い、白色の強い土器で、鈕は平べったく、大きい。遺構の時期は稲荷前VII期であろう。

第12号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(14.4)	(2.9)	(9.6)	BCFG	A	灰白	30%	№81・貯蔵穴床上33cm
2	坏	(15.6)			BCFG	A	暗青灰	10%	№48・床上3cm
3	坏			(11.0)	BCFG	B	オリーブ灰	15%	№48・63・床上0~17cm、P3覆土一括
4	柄	(17.8)		(10.2)	BCFG	A	暗青灰	20%	貯穴一括、№3・5・カマド床上4~5cm
5	蓋	(17.0)			BCG	C	灰白	20%	№79(鈕)・床面直上。下半は貯蔵穴覆土
6	蓋	(18.8)			BCFG	A	暗青灰	10%	覆土一括、肩部外面は右回りの回転範削
7	蓋	(20.8)			BCG	C	暗青灰	10%	覆土一括
8	鉢?	(18.2)			BCFGI	B	橙	20%	№1・カマド床上16cm
9	甕	(23.4)			ABFG	A	青黒	10%	貯蔵穴一括、内外面とも自然釉付着
10	鉢	(40.3)			ABCFG I	B	オリーブ灰	10%	№52・床上4cm

第13号住居跡 (第46図)

遺跡東部、第12号住居跡の西側、F-24グリッドに位置する。形態は、整わない方形である。住居跡としたが、カマドやはっきりとした貯蔵穴がなかったため、住居跡であるか不明である。第2、第3号溝跡、第14号土壇に切られていた。規模は長径4.45m、短径3.5mである。覆土は深さ約3cm

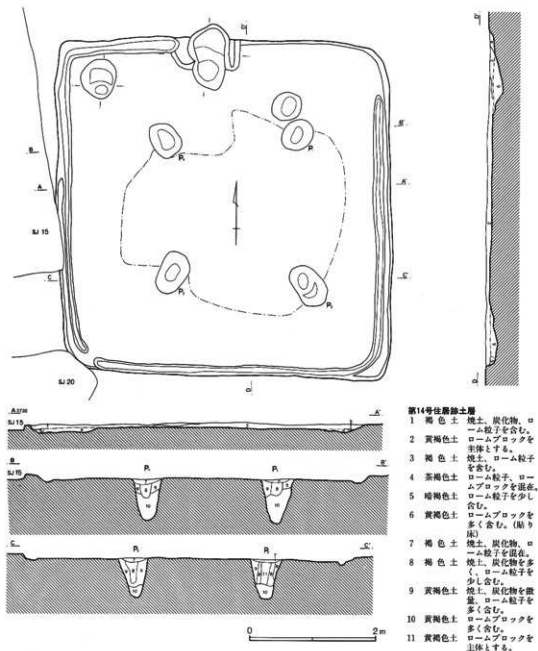


第46図 第13号住居跡

ほどの暗褐色土で、土層断面はとれなかった。北壁近くのピットが貯蔵穴の可能性を持つが、はっきりしなかった。出土遺物がなく、遺構の時期は不明であるが古代であろう。

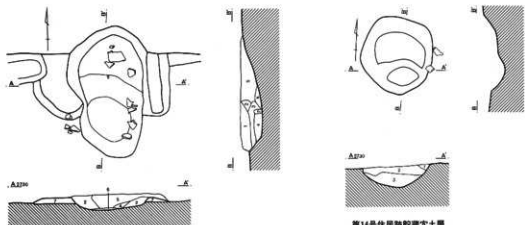
第14号住居跡（第47～50図）

遺跡東部、G-24グリッドに位置する。形態は長方形で、規模は長径5.35m、短径5.3mで、深



第47図 第14号住居跡

さは約5cmである。主軸方向はほぼ真北である。埋没状況は褐色土、黄褐色土、褐色土の自然堆積である。西側で第15、第20号住居跡とわずかに重複していた。住居跡の調査終了後、床面の黒褐色土混じりのロームを掘って貼り床の調査を行ったところ住居跡中央部以外の部分に貼床を確認した。カマドは北壁や貯蔵穴寄りに位置し、袖はローム混じりの暗褐色土で構築されていたが、しっ



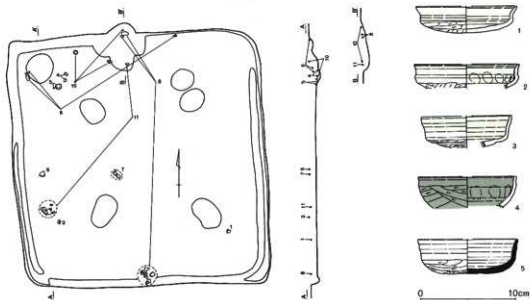
第14号住居跡カマド土層

- 1 褐色土 微量の焼土、ローム粒子、炭化粒子を含み、しりり弱い。
- 2 黒褐色土 焼土を若干混在。
- 3 赤褐色土 多量の焼土粒子、焼土ブロック、少量のロームブロック混在。
- 4 黄褐色土 ローム粒子を混在し、しりりや粘つ。
- 5 赤褐色土 焼土、炭化粒子、ローム粒子を含み、しりり弱い。
- 6 褐色土
- 7 カマド袖遺存部分

第14号住居跡貯蔵穴土層

- 1 明褐色粘土 砂質粘土、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 焼土、炭化粒子を含む。
- 3 暗褐色土 2層に近似するが、若干暗い。

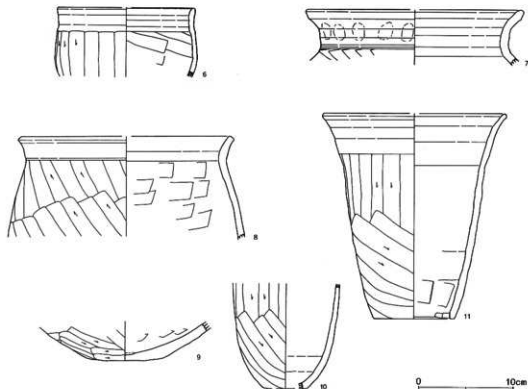
第48図 第14号住居跡カマド・貯蔵穴



第49図 第14号住居跡出土遺物 (1)

りとしたものではなかった。焚き口幅は約50cmほどで、焚出口がやや突出する。燃焼部は丸底状に窪み煙道に近づくにつれ徐々に立上がる。貯蔵穴は62cm×57cmの楕円形で、深さは約16cm、底にはテラスを持つ。周溝はカマド左側の北壁と南西隅を除き全周し、幅は約15cm。ピットは5本検出され、そのうち主柱穴と思われるのがP1・P2・P3・P4の4本である。

遺物の1から3はいずれも赤彩されている。1は底部と口縁の境で大きく屈曲し、口縁部の外反も大きい。口縁内面に沈線が巡る。2の環は底部と口縁の境に無調整部をもち、口縁内面に沈線が巡る。3の環は底部を削られて段を持つ、特徴的な土器である。5は底部外面手持ち筥削りされた須恵器坏で、白色針状物質を含む。遺構の時期は稲荷前IV期であろう。



第50図 第14号住居跡出土遺物 (2)

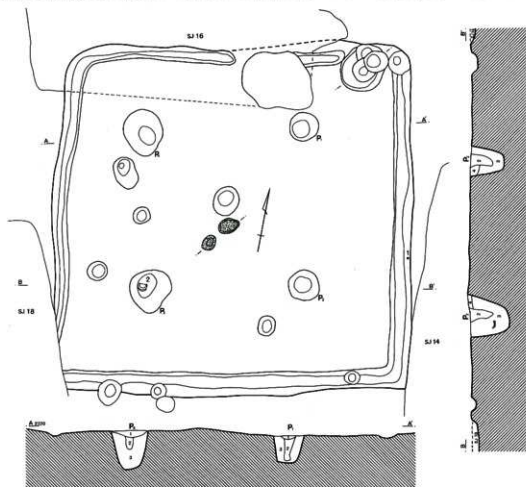
第14号住居跡出土遺物観察表 (第49・50図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.6)	2.8		BCFG	A	赤褐	30%	No.8・床上2cm、赤彩
2	坏	(11.0)			BCEFG	A	赤褐	20%	P2覆土一括、赤彩
3	坏	(9.6)			ABCF	A	赤褐	20%	No.40・床上3cm、赤彩
4	坏	(10.2)			ABFG	A	黒褐	20%	No.102・104・貼床出土、黒色処理
5	坏	(10.4)	3.6		ABCFG	C	暗青灰	70%	No.107・109・床面直上
6	台付甕	(14.2)			ABCEG	B	橙	30%	No.24・64・床上1~3cm
7	甕	(22.2)			ABCEG	A	黒褐	30%	No.30・床上2cm、内面の色調は淡橙
8	甕	(21.8)			CEFG	A	淡橙	30%	No.11・94・95・床上6cm
9	壺			(8.0)	ABCG	A	淡橙	15%	No.83・床上3cm
10	甕			(4.6)	ABEG	B	淡橙	30%	No.56・97・99・床上1~7cm
11	甕	(18.8)	21.6	8.6	ABCG	A	淡橙	40%	No.84・89・床上1~15cm

第15号住居跡 (第51～53図)

遺跡東部、G-24グリッド、第14、16、18号住居跡と重複し、切合い関係は14→15、18→15→16の順である。すぐ南側に第20号住居跡のカマドが迫る。形態はやや下膨れた方形で、規模は長径5.75m、短径5.5m、覆土はなく、周溝によるプランの確認であった。カマドはなかったため、主軸方向は確定でないが、貯蔵穴と4本の主柱穴からはほぼ北向きの住居跡と思われ、主軸方位はN-12°-Wである。炉が住居跡中央部やや南寄りて2基検出され、規模はそれぞれ径約26cm、34cmである。貯蔵穴は150cm×130cmの楕円形で、北壁に位置する。深さは約85cmで、底に3つのビット状の掘込みを持つ。周溝は貯蔵穴部分を除き全周し、幅は約25cmである。主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本である。

遺物の1と3は周溝からの出土である。1の坏は色調が淡く、白色針状物質を含まない北武蔵系のものである。遺物2の椀はP3の覆土中から1個体がきれいに2つに割られ、重なって出土したも



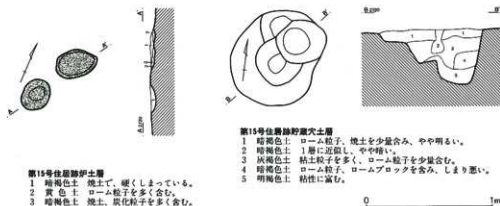
第15号住居跡土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土、炭化物を混在。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、炭化粒子を混在し、きめやや粗粒。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを含み、しまりやや持つ。
- 4 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを混在し、しまりやや持つ。

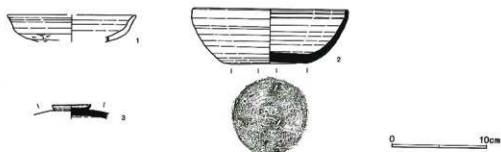
0 2m

第51図 第15号住居跡

ので、ほぼ完形の土器である。口縁は先端で内湾し、内面に太めの沈線状の掘込みが明瞭に巡る。遺構の時期は出土遺物から稲荷前VII期であろう。



第52図 第15号住居跡炉跡・貯蔵穴

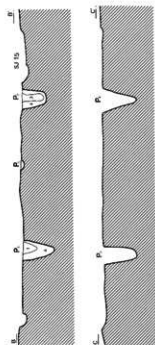
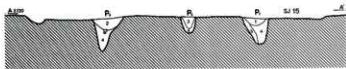
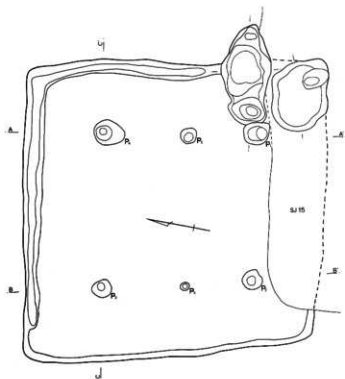


第15号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.4)			ABEG	B	淡橙	5%	Na.4・周溝出土、北武蔵系
2	碗	16.2	5.7	8.0	BCFG	A	暗青灰	90%	Na.8・P3出土
3	蓋				BCFG	A	青灰	10%	周溝一括、内面に自然離付着

第16号住居跡 (第54・55図)

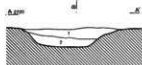
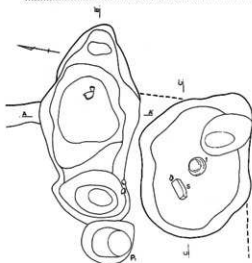
遺跡東部、G-24グリッド、第15号住居跡の北側に位置する。形態は方形で、規模は長径4.8m、短径4.65mで、覆土は薄く、土層断面はとれなかった。本遺構の貯蔵穴、カマドが第15号住居跡を壊して突出することから本遺構の方が新しい。主軸方向はN-80°-Eで、ほぼ東向きの住居跡である。カマドは住居跡南東コーナーに貯蔵穴とともに寄る。残り悪く、袖は確認できなかった。焚口部とP1に挟まれた部分にやや深いビット状の掘込みが検出されたが、土層観察からカマドと一体のもので、灰の掻き出し穴であろうか。貯蔵穴は110cm×90cmの不整形で、深さは約16cmであり、底面直上から坏1を伏せた状態で、石を覆土上層から検出した。周溝は幅約20cmで、北、東壁を巡る。主柱穴と思われるビットはP1・P2・P3・P4・P5・P6の6本で、中央部のP5、P6は穴が小さく、浅いので補助



第16号住居跡土層

- 1 黒褐色土 混有物をほとんど含まない。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を微量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックをまばらに含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子を極く多量に含む。

0 2m



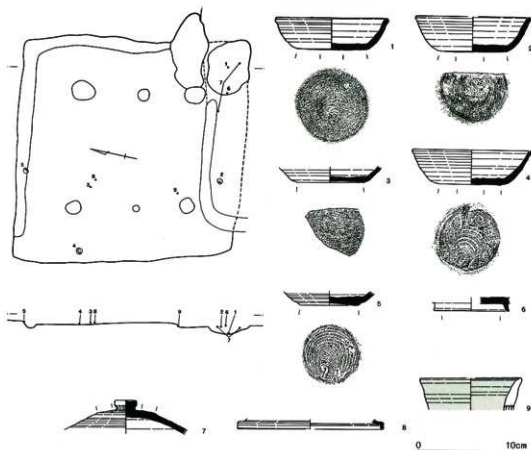
第16号住居跡カマド・貯蔵穴土層

- 1 赤褐色土 焼土、炭化粒子を含む。
- 2 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを混在。
- 3 褐色土 きめ細かく、しまりやや持つ。
- 4 赤褐色土 焼土、ローム粒子を含み、きめやや粗鬆。
- 5 褐色土 ローム粒子、焼土を含み、しまりやや弱い。
- 6 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土 焼土、炭化粒子を混在。
- 8 暗褐色土 ローム粒子、若干の炭化粒子を混在。
- 9 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、しまり持つ。

第54図 第16号住居跡・カマド・貯蔵穴

的な柱穴であろう。

遺物の1、2はよく似た小柄の須恵器坏で、焼きがよく、やや厚手である。3の坏は薄い作りで底部は前面左回りの回転篋削り、4は焼きの悪い須恵器坏でやや薄手で、底径が小さい。5は全面回転糸切である。7の蓋は鈕が小さく天井部の肩が張る。9の壺は混入土器と思われる。遺構の時期は、出土遺物から稲荷前Ⅸ期であろう。



第55図 第16号住居跡出土遺物

第16号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

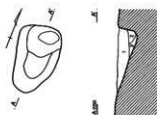
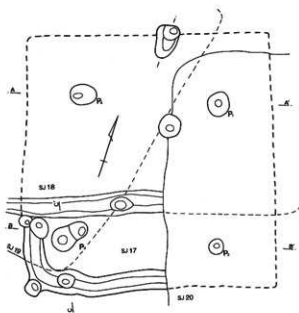
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	11.7	7.2	3.4	BCF	A	暗青灰	100%	№107・貯蔵穴床面直上
2	坏	(11.9)	3.7	(7.2)	BCF	A	暗青灰	50%	№73・床上5cm
3	坏			(7.0)	BCFGI	A	暗青灰	15%	№30・床上1cm
4	坏	12.4	3.6	6.5	ABCG	D	ナブ灰	95%	№22・床面直上
5	坏			6.2	ABCG	A	暗青灰	15%	№9・床上6cm
6	高台坏			(8.0)	BCG	A	青灰	10%	№65・床面直上
7	蓋				BCG	A	暗青灰	30%	№60, 64・貯蔵穴出土
8	蓋	(15.4)			BCG	C	暗青灰	5%	№31・床直、自然釉付着
9	小形壺	(10.6)			BCGI	A	赤褐	5%	№87・貼床調整土内混入、赤彩

第17号住居跡 (第56・57図)

遺跡東部、H-24グリッドに位置する。第18、19、20号住居跡に遺構の大半を壊されていた。またすぐ南側で第21・22号住居跡と隣接する。切合い関係は17→20・18・19で、本遺構が最も古いものである。住居跡南側の周溝と主柱穴の4本、そしてカマドが確認されたことから、住居跡のプランを推定した。

形態は方形と思われる。規模は推定で、長径、短径とも約4mであろう。主軸方向はN-21°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは上部を第18号住居跡に壊され、燃焼部底部のみの確認であった。周溝は幅約30cmで、住居南西部にわずかに残る。主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本である。P1は第18号住居跡の主柱穴と同じビットであった。

本遺構の遺物は第61図で第18、19号住居跡出土遺物と合わせて報告する。遺構の時期は出土遺物から稲荷前V期であろう。

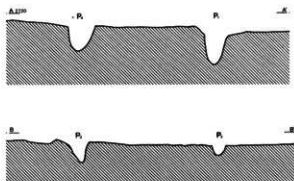


第17号住居跡カマド土層

- 1 灰褐色土 焼土、砂粒を混在。
- 2 灰褐色土 焼土、炭化粒子、若干のローム粒子を混在。
- 3 黄褐色土 ローム粒子をやや多く含む。

0 1m

第57図 第17号住居跡カマド



第17号住居跡土層

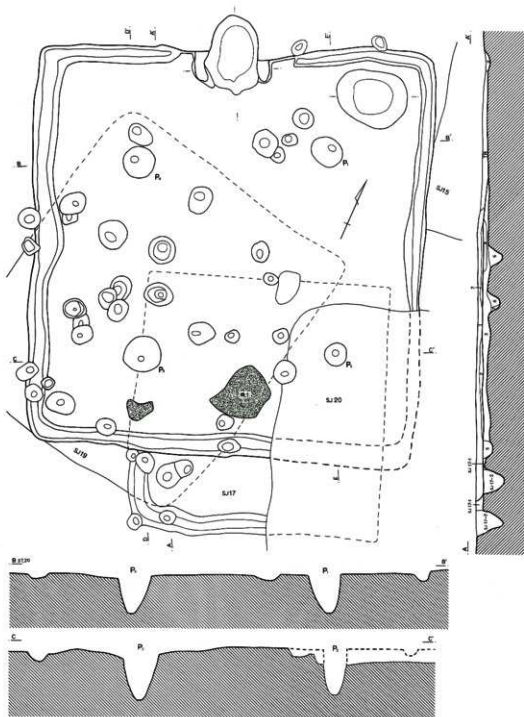
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含み、しまり持つ。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。(柱穴)

0 2m

第56図 第17号住居跡

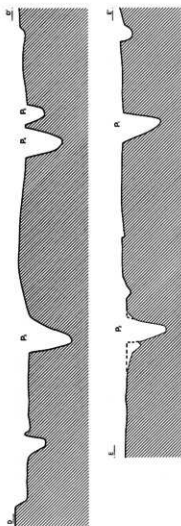
第18号住居跡 (第58・59図)

遺跡東部、G-23グリッドに位置する。形態は長方形で、規模は長径6.4m、短径6.3m、深さは約



第58図 第18号住居跡

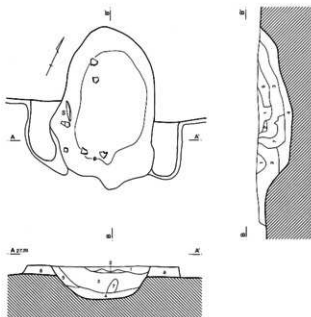
18cmである。主軸方向はN-26°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。第15・17・19・20号住居跡と重複し、切合い関係は17→18→19、18→15である。18と20の切合いははっきりしなかった。



第18号住居跡土層

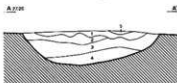
- 1 暗褐色土 焼土、ローム粒子、炭化物を含む。(SJ19 覆土)
- 2 暗褐色土 ローム粒子を混在し、焼土、炭化物を少量含む。(SJ19 覆土)
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含み、きめ細かい。
- 4 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子、炭化物を含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒子、炭化物を含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。

0 2m



第18号住居跡カマド土層

- 1 暗褐色土 焼土を多く含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を主体とする。
- 3 赤褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多く含む。
- 4 褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 5 灰褐色土 焼土を含み、きめ細かい。
- 6 赤褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを含む。
- 7 赤褐色土 焼土ブロックを含み、やや砂質で粘性あり。
- 8 軸遺存部



第18号住居跡貯蔵穴土層

- 1 黒色土 炭化物を多量、焼土、ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 褐色土 ローム粒子、焼土、炭化物を含み、粘性あり。
- 5 暗褐色土 ローム粒子、焼土、炭化物を含む。

0 1m

第59図 第18号住居跡カマド・貯蔵穴

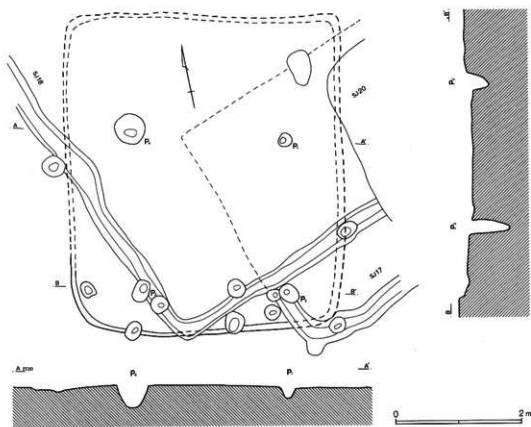
カマドは北壁中央に位置し、袖はローム混じりの暗褐色土で構築される。燃焼部左側に薄い板状の石が壁を補強するように残っていた。焚き口幅は約60cm、燃焼部は丸底状に窪まる。貯蔵穴は約115cm×90cmの楕円形で、深さは約27cmである。周溝は幅約30cmで、カマド部分を除き全周する。主柱穴と思われるピットはP1・P2・P3・P4の4本であり、P2は第17号住居跡の主柱穴と同じであった。南壁付近に焼土の分布が2箇所見られ、本遺構に伴うものと思われる。

覆土は浅い試掘トレンチによる攪乱を北壁寄りの床面に受けている。土層観察で、3、4層の上面である1、2層が第19号住居跡の覆土であると思われる。

本遺構出土遺物は第61図で第17、19号住居跡出土遺物と合わせて報告する。遺構の時期は稲荷前VI期であろう。

第19号住居跡（第60図）

遺跡東部、G-23グリッドに位置する。発掘調査時点では第18号住居跡の南西角に本遺構の南側の壁が確認されていたが、住居跡と認定できなかった。整理時点で第18号住居跡出土の遺物に2時期の遺物が見られたこと、第18号住居跡の遺構写真に本遺構の南壁に対応するプランが見えたことか



第60図 第19号住居跡

ら本遺構を認定した。

形態は長方形と思われる。規模は推定で長径約5m、短径約4.2m、深さは約7cmである。主軸方向はN-10°-Eで、やや東に傾いた北向きの住居跡である。カマド、貯蔵穴はなかった。主柱穴と思われるピットはP1・P2・P3・P4の4本である。

本遺構出土遺物は第17、18号住居跡出土遺物と合わせて報告する。遺構の時期は稲荷前IX期であろう。

第17・18・19号住居跡出土遺物 (第61図)

第17、18、19号住居跡は重複する住居跡で、発掘時点では全て第18号住居跡出土の遺物として取上げられていたが、各住居跡に属する遺物としてはばまとまりを持って捉えられた。よってここでもとめて報告する。

第17号住居跡として発掘時に取上げた遺物はないが、第18号住居跡出土の遺物の中で、本遺構の遺物と思われるものを実測図に示した。1、3は口縁内側に明瞭な沈線を、2はわずかにその痕跡を残す。2、3は底部と口縁の境に陵を持つ。遺構の時期は稲荷前V期であろう。

第18号住居跡の1～3の土師器環は白色針状物質を微量に含む土器である。3は器高が低く、皿状で、口縁内面に沈線を微妙に持つ。同じく沈線を1は持つが2は持たない。4の須恵器環は焼きがよく、器高もやや大きめである。5の環は焼きが悪く、灰白色の土器である。6、7の蓋は天井部の張りがやや異なるが、よく似た器形である。9の蓋は混入土器と思われる。遺構の時期は環や蓋から稲荷前VI期であろう。

第19号住居跡の遺物は遺構外からも検出されたが、試掘時のトレンチが入っており、動いたものと思われる。1、2の須恵器環は口径、底径とも小さい割に器高が高い、特徴的な土器である。3、4の環も小柄な土器で、口径は小さい。遺構の時期は稲荷前IX期であろう。

第17・18・19号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

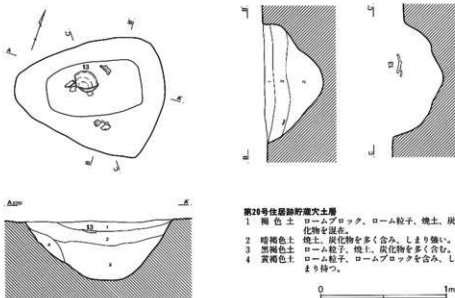
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
17-1	環	(13.4)			BCG	A	橙	5%	№180・床上6cm、赤彩
17-2	環	(13.6)			BCG	A	橙	5%	№99・床上1cm、赤彩
17-3	環	(12.0)			BCG	A	橙	5%	№184・床上10cm、赤彩
18-1	環	(11.8)			BCEG	A	赤褐	15%	№102・床上2cm、赤彩
18-2	環	(12.9)			BCG	A	赤褐	20%	№175-177・貼床出土、赤彩
18-3	環	13.8	3.3		BCEFG	A	赤褐	90%	№164・床上4cm、貯蔵穴覆土、赤彩
18-4	環	14.9	3.9	9.0	BCFG	A	暗青灰	30%	№155・床上7cm
18-5	環	(13.8)	(3.2)	(9.6)	BCG	C	灰白	15%	№145・146・床上4～9cm
18-6	蓋	15.6	3.0		BCG	A	暗青灰	90%	№160・床上5.5cm
18-7	蓋	15.5	3.2		BCG	A	暗青灰	70%	№104・床上2cm
18-8	白付蓋	(12.9)			ABCFG	A	橙	15%	№73・83・床上2～3cm
18-9	蓋	(11.3)			BCG	A	灰	15%	№130・床上7cm
19-1	環	(12.3)	4.2	7.6	BCG	C	暗青灰	75%	№1・2・床上9～10cm
19-2	環	(11.9)		(3.2)	BCG	A	暗青灰	30%	№28・29・30・50・床上2～6cm
19-3	環	12.8	3.7	7.4	BCEG	A	暗青灰	70%	№89・123・124・140・床上1～7cm
19-4	環	(12.5)	3.4	6.4	BCG	A	暗青灰	70%	№3・4・床面直上

第20号住居跡（第62～66図）

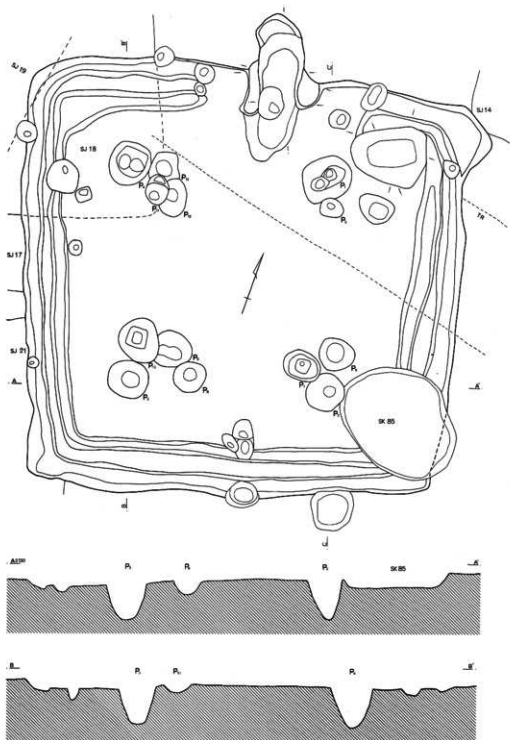
遺跡東部、H-24グリッドに位置する。形態はやや歪んだ横長の長方形で、規模は長径6.9m、短径6.7m、深さは約18cmである。内側の周溝が貯蔵穴付近で外側の周溝に切られることから、内側から外側へ拡幅する。主軸方向はN-20°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは北壁中央に位置し、暗褐色土による袖が構築されていた。焚口は大きく前方に延びる。燃焼部内右側にピットがあるが、新しい時期のものである。燃焼部やや奥に2個の河原石が重なって棒状に検出されたが、不安定で支脚に使用されたものとは思えない。ほぼ同一ライン上の右袖の壁際に、被熱した板状の片岩が3枚縦に重なって検出されたが、袖の補強に使われたものであろう。煙道部は先端でやや西に屈曲する。貯蔵穴は120cm×95cmの卵形で、北側は周溝との境がはっきりしなかった。深さは約35cmで、13の蓋が床から30cmほど浮いた状態で出土した。周溝は内側、外側とも、幅約20cmで、カマド部分を除き全周する。内側の支柱穴はP5・P6・P9・P12、外側のものはP1・P2・P3・P4である。

土師器、須恵器の接合しない破片が大量に出土した。遺物量のあまり多くない本遺跡の中では特異な存在である。1、2の環は白色針状物質を含まない土器である。1の環は底部内面に炭化した墨状の付着物が部分的に残る。3、4の環は焼きが悪い、灰白色気味の須恵器環である。5、6、7は焼きのよい平底の環で、7はやや器高が高い。8から10は口縁の開きがやや緩い。11、12は底径が小さい。13の蓋は鈕の先端を欠くが、大振りて天井部の肩が張るしっかりとしたものである。

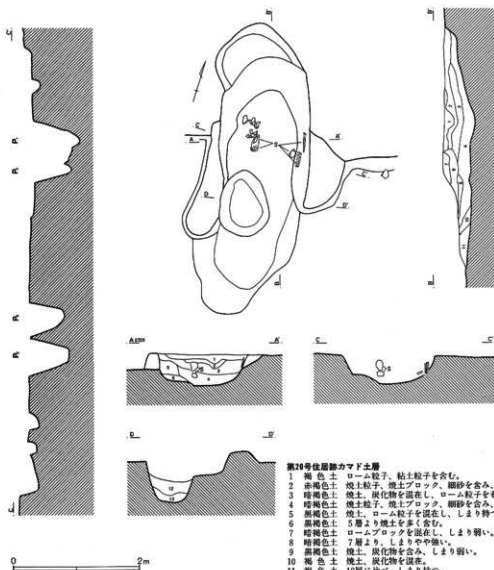
本遺構は第14、17、18、19、21号住居跡と重複関係にあり、切合い関係は17→21→20→19、14→20で、20と18の切合いははっきりしなかった。遺構の時期は稲荷前VI期の新しい時期に相当すると思われる。



第62図 第20号住居跡貯蔵穴



第63図 第20号住居跡

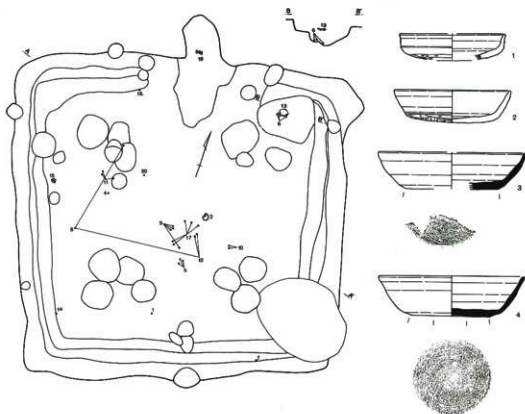


第64図 第20号住居跡カマド

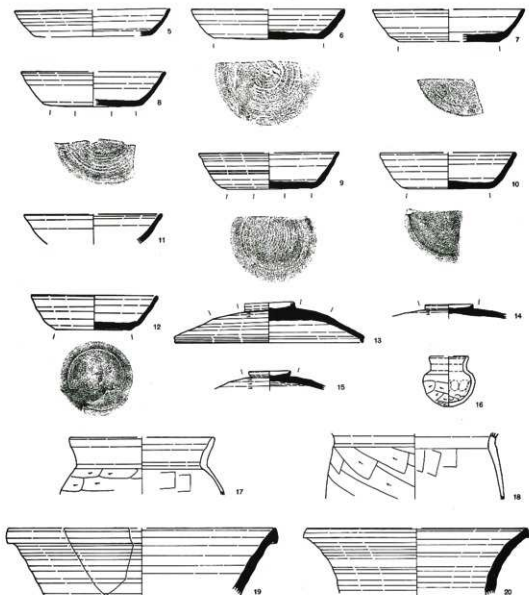
第20号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	11.0			BG	B	によい橙	10%	No367・床上13cm
2	坏	12.1	3.4	9.8	ABEG	A	によい橙	90%	No311・床上11cm
3	坏	(15.3)	3.9	(10.0)	ABCG	D	灰白	30%	貯蔵穴覆土
4	坏	15.2	4.2	8.4	ABCG	D	グレー灰	70%	No51・床上11cm

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
5	坏	(16.2)	(2.8)	(12.6)	BDG	A	暗青灰	15%	No186・187・269・床面直上
6	坏	16.0	3.2	11.6	BCG	A	灰白	50%	No312・319・貯蔵穴床上5~13cm
7	坏	(15.8)	3.4	(10.6)	BCG	A	暗青灰	25%	No295・床上3cm
8	坏	(15.6)	(3.4)	(10.2)	CG	D	灰白	40%	No36・44・床上2~10cm、P4覆土
9	坏	14.8	3.8	8.8	BCFG	A	砂・灰	50%	No150・268・298・303・床上10cm
10	坏	(14.1)	3.8	(8.7)	BCG	A	暗青灰	25%	No202・271・床上11~12cm
11	坏	(14.4)			BCG	A	灰白	30%	No46・47・49・床上9~10cm
12	坏	13.2	3.6	8.0	BCG	A	暗青灰	80%	No86・床上10~13cm
13	蓋	19.8	(3.3)		BCG	A	灰白	95%	No324・貯蔵穴床上32cm
14	蓋				BCG	A	暗青灰	15%	No352・床上2cm
15	蓋				BCG	A	暗青灰	30%	No327・床面直上
16	ミニチュア	(3.9)	5.3		BG	B	橙	40%	No284・床面直上
17	甕	(15.1)			BCEFG	B	橙	20%	No170・173・176・301・302・床上6~11cm
18	甕				BFG	B	橙	15%	No326・カマド床上18cm
19	甕	(28.2)			BCG	A	黒褐	10%	P3覆土一括、口縁と内面に自然釉付着
20	甕	(23.3)			BCG	A	黒褐	15%	No52・床上13cm、内外面に自然釉付着



第65図 第20号住居跡出土遺物 (1)



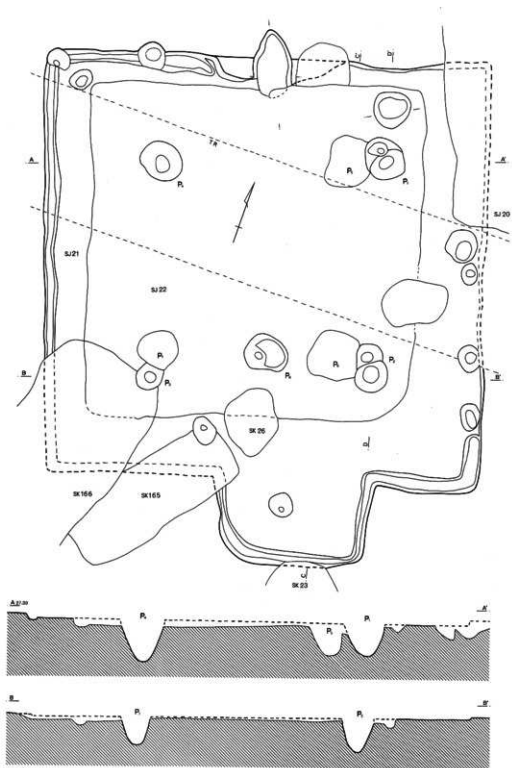
第66図 第20号住居跡出土遺物 (2)

0 10cm

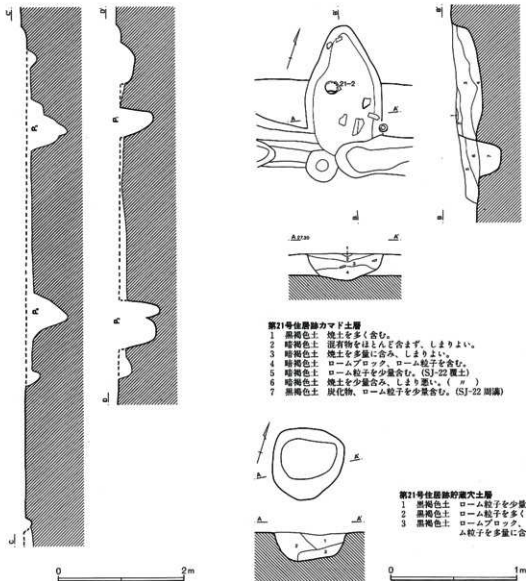
第21・22号住居跡 (第67～71図)

遺跡東部、H-24グリッドに位置する。外側の張出しを持つ住居跡が第21号、内側が第22号である。外側の住居跡から内側へと縮小する住居跡である。住居跡の切合い関係は21→20→22の順である。第23、26、165、166号土壌に切られる。

外側の第21号住居跡から述べる。形態は方形で張出し部を持つ。規模は長径7.9m、短径7m、深さは約10cmである。主軸方向はN-18°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは北壁中央に位置し、褐色土の袖が確認できた。右袖東側は土壌状の掘込みに切られていた。燃焼部上面



第67図 第21号住居跡



第21号住居跡カマド土層

- 1 黒褐色土 焼土を多く含む。
- 2 暗褐色土 混雑物をほとんど含まず、しまりよい。
- 3 暗褐色土 焼土を多量に含む。しまりよい。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。(SJ-22 覆土)
- 6 暗褐色土 焼土を少量含む。しまり悪い。(N)
- 7 黒褐色土 炭化物、ローム粒を少量含む。(SJ-22 周溝)

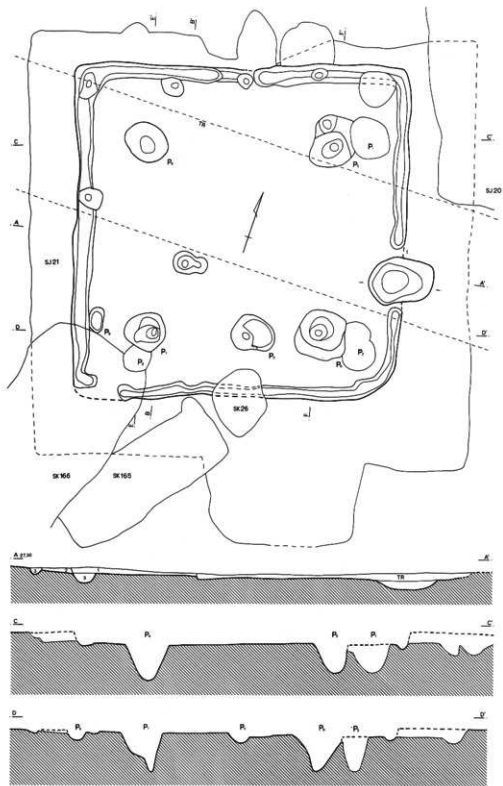
第21号住居跡貯蔵穴土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量に含む。

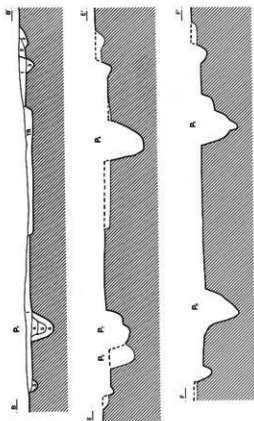
第68図 第21号住居跡カマド・貯蔵穴

に須恵器の環が検出された。焚口部は内側の住居の周溝に切られる。燃焼部は丸底状にやや掘り込まれる。貯蔵穴が検出され、規模は57cm×56cmの楕円形で、深さは約23cmである。周溝は幅約25cmで、カマド部分、北壁東側、東壁を除き全周。主柱穴と思われるのがP1・P2・P3・P4の4本である。

内側の第22号住居跡は形態は方形で、規模は長径、短径とも5.2mで、深さは約15cmである。主軸方向はN-74°-Eで、東向きの住居跡である。カマドはトレンチに上部を切られて残り悪く、燃焼部だけの遺存であった。奥に甕が倒立した状態で検出された。周溝は幅約20cmで、カマド部分と南西隅を除き全周する。主柱穴と思われるのがP5・P6・P7・P4の4本で、P4は外側の住居跡と同じも

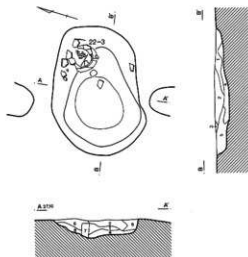
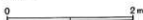


第69图 第22号住居跡



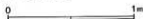
第22号住居跡土層

- 1 赤褐色土 ローム粒子、焼土を少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 5 赤褐色土 焼土、ローム粒子を微量に含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。



第22号住居跡カマド土層

- 1 暗褐色土 焼土、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物を多量、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土、炭化物を多く含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土 1層に近似的だが、炭化物を少量含む。
- 7 暗褐色土 1層に近似的だが、ローム粒子はわずかにある。
- 8 暗褐色土 ロームブロックをまばらに含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。



第70図 第22号住居跡カマド

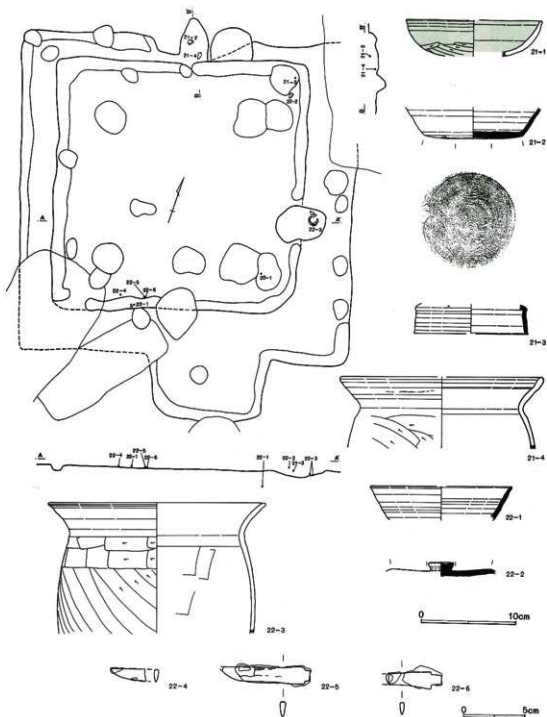
のである。

第21号住居跡の遺物1の環は白色針状物質を含む在地産のものである。2の環はカマド確認時に検出した須恵器環である。3は短頸壺の蓋である。4の甕は口縁内面に緩い屈曲をもつ。

第21・22号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
21-1	環	(14.2)		10.2	BCFG	A	赤褐	20%	Na51・床上5cm、赤彩
21-2	環				ABCFG	A	暗青灰	30%	Na37・21号住カマド床上12cm
21-3	蓋	11.9			BCG	A	暗青灰	15%	Na36・床上7cm
21-4	甕	(21.0)			ABFG	A	橙	10%	Na39・21号住カマド床上4.5cm
22-1	環	(14.8)			ABCG	A	暗青灰	15%	Na33・床上9cm
22-2	蓋				BCG	A	暗青灰	15%	Na5・床上4cm、天井部回転窓割り
22-3	甕	(22.6)			BEFG	A	淡橙	30%	Na52・59・22号住カマド出土
22-4	刀子	長さ2.7cm	幅0.4cm						Na32・床上9cm
22-5	刀子	長さ6.7cm	幅0.4cm						Na35・床上6cm
22-6	刀子	長さ4.3cm	幅0.3cm						Na35・床上6cm

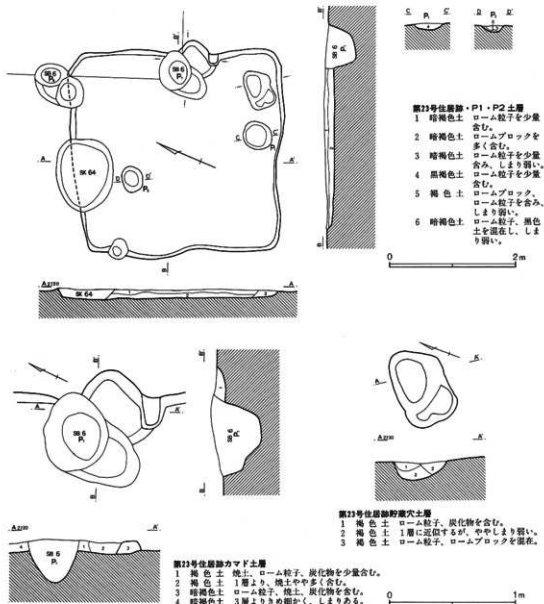
第22号住居跡の遺物3の裏はカマド出土の土器で、器壁が薄い。遺構の時期は、外側の第21号が稲荷前VI期の古い時期、内側の第22号が稲荷前VII期であろう。



第71図 第21・22号住居跡出土遺物

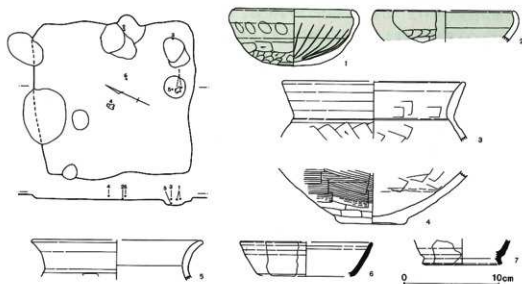
第23号住居跡 (第72・73図)

遺跡東部、H-25グリッドに位置する。形態はやや歪んだ方形で、規模は長径3.4m、短径3.3m、深さは約15cmである。主軸方向はN-67°-Eで、北東向きの住居跡である。第6号掘立柱建物跡によりカマドを、第64号土壇により北西壁を切られていた。カマドは北東壁やや貯蔵穴寄りに位置し、第6号掘立柱建物跡の2つの掘込みを持つP7が左袖と焚き口部分を大きく壊していた。貯蔵穴は62cm×42cmの不整形形で、深さは約13cm、底にテラスを持つ。ピットは2本検出されたが、主柱穴とは思えない。



第72図 第23号住居跡・カマド・貯蔵穴

遺物 1 の柄は内面に暗文を持ち、赤彩は塗りが厚い。4 の壺は体部外面に部分的に木口ナデが施される。遺物の 6・7 の坏と高台坏は混入土器と思われる。遺構の時期は、出土遺物より古墳時代後期前半であろう。



第73図 第23号住居跡出土遺物

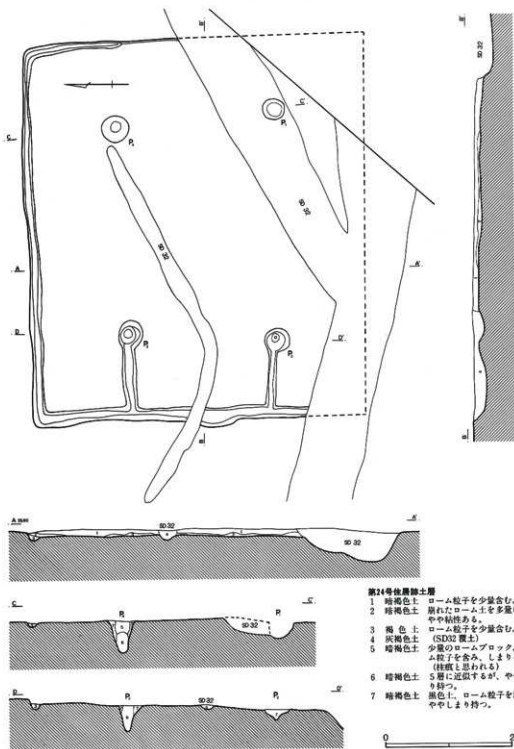
第23号住居跡出土遺物観察表 (第73図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	柄	12.2	(6.0)		BG	A	赤褐	40%	Na29・42・P1 床上10cm、赤彩
2	坏	(14.4)			ABEFG	B	赤褐	10%	Na47・カマド床上4cm、赤彩
3	甕	(18.9)			ABFG	A	浅黄橙	15%	Na20・床上4cm
4	壺			7.5	ABG	A	浅黄橙	20%	Na11・床上11cm
5	甕	17.6			ABCFG	A	黒褐	5%	Na41・P1 床上4cm、内面の色は浅黄橙
6	坏	(13.8)			BCG	A	灰	10%	Na12・床上7cm
7	高台坏			(8.8)	BCG	A	暗青灰	10%	覆土一括

第24号住居跡 (第74・75図)

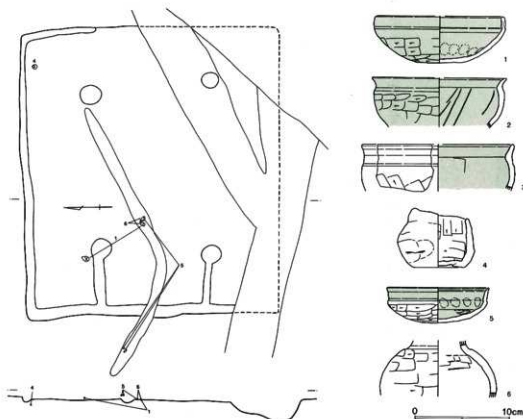
遺跡東端、I-26グリッドに位置する。現代の水路 (第32号溝跡) と調査範囲外のため形態は不明だが方形であろう。規模は一辺が6mで、片方は不明、深さは約15cmである。カマドがないのははっきりしないが、主軸方向はほぼN-90°E、東向きの住居跡であろう。周溝は幅約20cmで、東壁の一部を除き全周する。支柱穴はP1・P2・P3・P4である。P2・P3から西壁に向かって延びる溝は住居の間仕切り溝と考えられる。

遺跡東端、水田地帯に隣接する位置に立地するので住居跡の床面の大半はしっかりとしたロームでなく、ローム混じりの黒褐色土であった。西壁からP4にかけて延びる溝は現代水路のカーブと一致することからそれに付随する現代のものであろう。



第74図 第24号住居跡

遺物1、2の坏は赤彩が丁寧に施されている。1の坏は口縁部が内側に段を持つ。底部は篋で削られ、平底である。5の坏は体部と底部の境に陵を持ち、口縁内面に明瞭な沈線が巡る。5の坏と6の小形壺は住居跡内の第32号溝跡覆土出土で、混入土器である。遺構の時期は、古墳時代後期前半であろう。



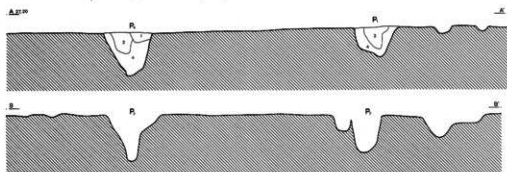
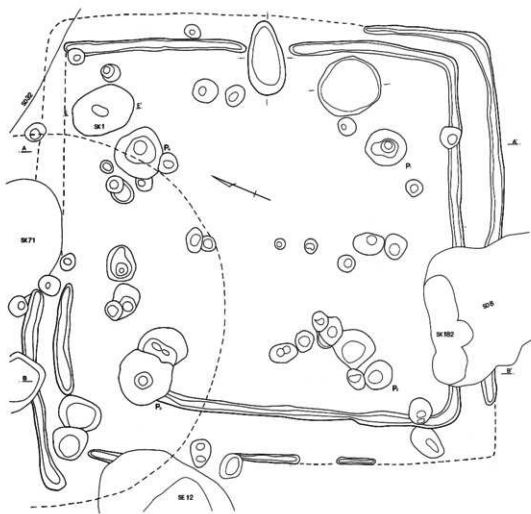
第75図 第24号住居跡出土遺物

第24号住居跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.2	4.9	4.7	BCG	A	赤褐	60%	Na9・13・床上2cm、赤彩
2	坏	(14.1)			BG	A	赤褐	20%	覆土一括、赤彩
3	鉢	(15.8)			ABCFG	A	赤褐	10%	覆土一括、赤彩
4	手掘土器	5.8	6.2	5.5	ABG	C	浅黄橙	95%	Na15・床面直上
5	坏	10.6	3.7		ABFG	A	赤褐	80%	Na11・16・17・SD32 覆土、赤彩
6	小型壺				BCFG	C	浅黄橙	15%	Na12・13・SD32 覆土、内面の色調は灰

第25号住居跡 (第76～78図)

遺跡南東部、I-23グリッドに位置する。形態は長方形で、周溝が二重に巡ることから住居の建替があったと思われる。規模は外側で長径7.4m、短径6.9m、内側で長径6.4m、短径6m、覆土はな



第25号住居跡土層

- 1 黒褐色土 焼土を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック多く含む、しまり弱い。
- 3 黒褐色土 ロームブロック、炭化物多く含む。
- 4 褐色土 褐色土、ロームブロックを混在。

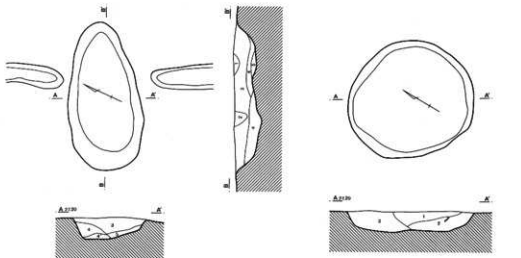
0 2m

第76図 第25号住居跡・住居内1号土壌

い。主軸方向はN-68°-Eで、北東向きの住居跡である。第32号溝跡に北コーナーを、第8号溝、第182号土壁に南東壁を、第12号井戸に南西壁を切られる。また縄文時代の第1号住居跡が本遺構と重複する。住居跡北角に楕円形の小さい土壁が検出されたが、住居の内側であり、住居に伴う可能性があるのでは住居内1号土壁として報告する。

カマドは北東壁中央に位置し、残りは悪く、燃焼部の掘込みは浅い。土層観察から3層は天井部の崩落土と思われる。貯蔵穴は1m×92cmの円形で、深さは約15cmである。周溝は二重であり、内側の幅約15cmで、カマドと北西壁を除き全周する。外側の周溝の幅は約15cmだが、掘り込みは浅く、はっきりとしない部分が多かった。主柱穴と思われるピットはP1・P2・P3・P4の4本である。また多数のピットが検出されたが、伴うかどうか、不明である。

遺物4の須恵器坏は焼きが悪く、やや軟質の須恵器である。遺構の時期は出土遺物から稲荷前IV期であろう。



第25号住居跡カマド土層

- 1 黄褐色粘土
- 2 褐色土
- 3 明褐色粘質土 砂質粘土を主体とし、焼土粒子、焼土ブロック多く含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、焼土混在。
- 4' 暗褐色土 ローム粒子やや多く含む。
- 5 黄褐色土 ローム粒子、黒色土ブロックを少量混在。

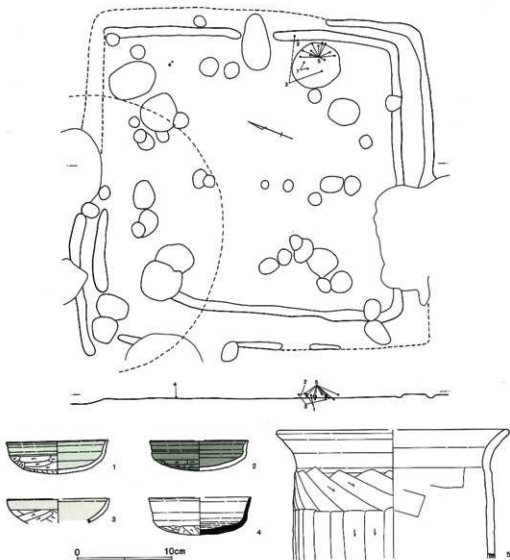
第25号住居跡貯蔵穴土層

- 1 明灰色粘土 焼土を混在。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土、炭化物を混在。
- 3 褐色土 微細なローム粒子、焼土を混在。

第77図 第25号住居跡カマド・貯蔵穴

第25号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

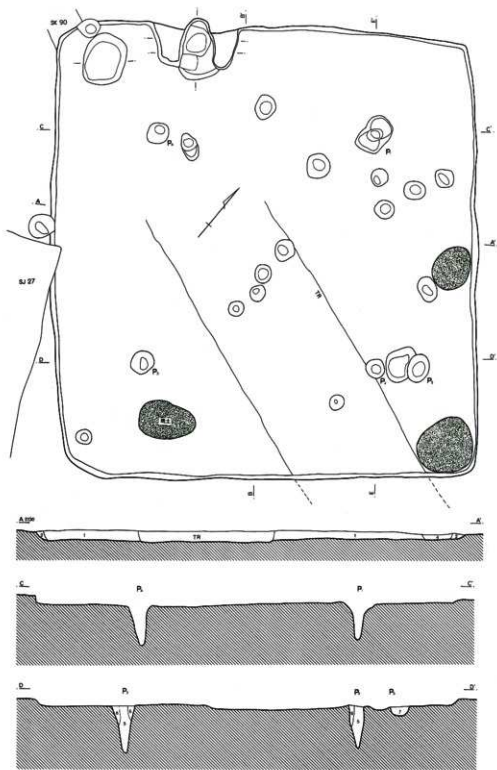
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	10.7	3.4		BCFGI	A	橙	50%	Na43・45・65・貯蔵穴覆土、赤彩
2	坏	10.2	3.1		BCFG	A	黒褐	70%	Na13・貯蔵穴床上10cm、黒色土器
3	坏	(10.7)			ABCFG	B	橙	15%	Na6・61・周溝・貯蔵穴床上5cm、赤彩
4	坏	10.7	3.9		ABCGH	D	才-7灰	40%	Na7・床面直上、焼き悪い
5	甕	24.0			ABCEGH	A	浅黄橙	20%	Na15・17・18・床上12~14cm



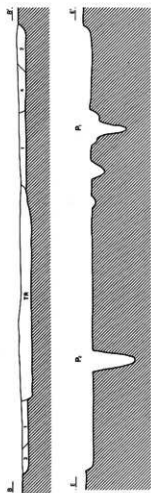
第78図 第25号住居跡出土遺物

第26号住居跡（第79～82図）

遺跡東南部、J-23グリッドに位置する。形態は大形の長方形で、規模は長径7.2m、短径6.7m、深さは約10cmである。遺構中央は試掘時のトレンチに壊されていた。主軸方向はN-40°-Wで、北西向きの住居跡である。カマドは北壁西に片寄った位置にあり、貯蔵穴とともにまとまる。そのため北壁東側に空間がある。カマドは残りがよく、甕を芯に使った袖を検出した。袖の幅は約40cmほどで、焚き口幅は約50cm、燃焼部は住居床面より15cmほど掘り込まれる。土層観察から天井部の崩落と思われる粘土層が観察された。4層は構築時の掘方と考えられる。貯蔵穴は81cm×66cmの方形で、深さは約30cmである。主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本で、柱底が確認できた。



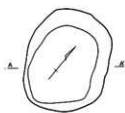
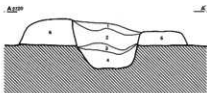
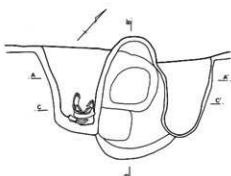
第79图 第26号住居跡



第26号住居跡土層

- 1 暗褐色土 微細なローム粒子、焼土を含む。
- 2 褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 3 褐色土 焼土やや多く、炭化物少量含む。
- 4 黒色土 ロームブロック混入。(土壌覆土)
- 5 暗褐色土 柱状で、しり弱い。
- 6 黄褐色土 ローム粒子混在。
- 7 暗褐色土 炭化物を少量含む、しり弱い。

0 2m

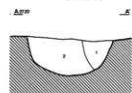


第26号住居跡カマド土層

- 1 明灰褐色粘土 (天井部崩落土)
- 2 明灰褐色粘土 焼土ブロック、焼土粒子を多く含む。(天井部崩落土)
- 3 黒灰色土 灰層
- 4 黄褐色土 ローム粒子、黒色土を混在。(壁方埋土)
- 5 暗褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 6 明褐色粘土 焼土、炭化物を含む。

第26号住居跡貯蔵穴土層

- 1 黒褐色土 焼土、ローム粒子を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 焼土、ローム粒子をやや多く含む。

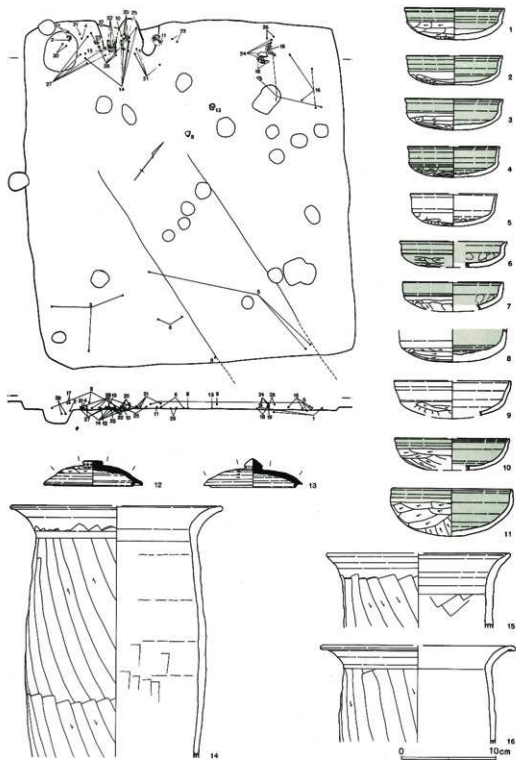


0 1m

第80図 第26号住居跡カマド・貯蔵穴

土層観察で住居跡内に、新しい土壌が観察された。床面は平坦で、カマド前面から中央部が硬く締まっていた。壁際に焼土が散布し、床面が焼けていた。

土師器環、椀で口縁内面に沈線を持つのは1、2、3、4、7、10、11である。1、6、7は体部外面に陵をもつ。4、5は体部が緩く内湾する環である。5は器壁薄く、風化が著しい。4は体部が直立する。9は体部内外面ともヨコナデで土師器であるが、焼きが硬く、色調も橙でなく異質で、焼きの悪い須恵器のような感じを受ける土師器環である。12の蓋は内外面とも黒色で、須恵器としては異質である。時期は、出土遺物より稲荷前IV期であろう。



第81圖 第26号住居跡出土遺物 (1)